



Communion with God

神との交わり

神との交わり

Communion with God

目次

Contents

1 真の祈りとは何であるか	1
2 朝の祈り	4
3 祈りの時を見出す事の困難	7
4 祈りに対する熱心	10
5 何を祈り求めるか	13
6 霊性復興の必要	16
7 前の雨と後の雨	19
8 祈りと喜び	22
9 祈りと信頼	25
10 祈りと崇敬の念	28
11 祈りと勤勉	31
12 神のみ顔を仰ぐ	34
13 あなたを知るために	37
14 自己中心の祈り	40
15 尊く大いなる約束	43
16 仮屋の奥	46

17 根気のよい祈り	49
18 祈りと瞑想	52
19 祈りにおける天使の奉仕	55
20 もし神が既にご存じであれば、なぜ祈るのでしょうか	58
21 感情は基準ではない	61
22 祈りはどのように答えられるか	64
23 服従と信仰は祈りの聞かれる条件	67
24 告白と赦しの精神が必要	70
25 いやしのための祈り	73
26 いやしのための祈りは厳粛なものである	76
27 応答は時として遅れる	79
28 祈りと試練	82
29 心の迷う時、どうすればよいか	85
30 憶測的な祈り	88
31 祈祷と公けの礼拝	91
32 家庭礼拝	94
33 祈祷会の重要性	97
34 祈りにおけるキリストの苦悶	100
35 一心に祈る	103
36 目を覚まして祈りなさい	106

37	だから目をさましていなさい	109
38	グループで祈ること	112
39	神のみ旨をどうしたら知り得るか	115
40	しるしを求めること	118
41	祈りの精神に入る	121
42	人々に対するわれわれの責任	124
43	神の御声を聞け	127
44	キリストの御名によって祈れ	130
45	キリストの主な重荷	134
46	われらの仲保者、キリスト	137
47	祈りはサタンを打ち破る	141
48	母の祈り	144
49	特別な招き	147
50	祈りに対する偽りの解答	150
51	祈りがきかれる鍵としての信仰	153
52	エノクはどのようにして神と共に歩んだか	156
53	我々の経験と働き	159



真の祈りとは何であるか

聖書の宝石

「また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った。『主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください。』」（ルカ 11：1）

質問

真の祈りとは何であるか。この霊的冒険を始める前に実際に効果ある祈りとは何であるかを定義することはよいことではないだろうか。

答え

友だちに語るように神に語ること

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることであります。これはなにも私どもがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、私どもが神を受け入れるのに必要だからであります。祈りは、神を私どもにまで呼びおろす

のではなく、私どもを神の許へ引き上げるのであります。」(キリストへの道・126)

信仰の手に握られた鍵

「悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪へおびき入れます。

それというのも、ただ私どもが、神の定めたもうた祈りの特権を用いないからであります。祈りは、全能の神の無限の資材が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵であります。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょうか。つねに祈り忠実に見張っていなければ、私どもは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険があります。」(同書・129)

宗教の真髄

「密室の祈りをおろそかにしてはならない。それは宗教の真髄だからである。真面目で熱烈な祈りをもって魂の潔めを願い求めなさい。いのちが危険であるときにするように、真剣に、熱心に祈りなさい。救われたいという願いが心の中に起こるまで神の前にとどまるときに罪が許されたというすばらしい確証が得られるのである。」(1T・163)

魂の呼吸

「祈りは魂の呼吸である。それは霊的力の秘訣である。その代わりとなるいかなる恵みの手段もなく、魂の健康を保つ他のいかなる方法もないのである。祈りによって心は直接生命の源に触れ、宗教経験という筋肉は強められるのである。祈ることをおろそかにするか、都合のよいとき時々祈るならば神を見失うであろう。」(GW・254, 255)

神との会話

「いつも、主を目の前におおいで、主に感謝と賛美を捧げているならば、わたしたちの信仰生活は常に新鮮さを保つことができる。わたしたちの祈りは、ちょうど友人と語るように、神との会話のかたちになり、神は、わたしたちに個人的に神の神秘について語りかけて下さるのである。わたしたちは、しばしば、尊いイエスの臨在を身近に感じることがある。昔、神がエノクと語られた時のように、神がわたしたちに近づかれると、わたしたちの心中も燃えるのおぼえる。こうしたことが、本当にクリスチャンの経験となるときに、そのクリスチャン生活には、単純、謙遜、柔和、心のひくさなどがあらわれてきて、接するすべての人に、彼がイエスと共にあって、イエスから学んだ者であることを感じさせるのである。」(キリストの実物教訓・109)

祈りのテーマ

天の父よ、祈りが私にとってもっと現実的なものとなり、私があなを私の最上の友と考えることができますように。



朝の祈り

聖書の宝石

「主よ、わたしの言葉に耳を傾け、わたしの嘆きに、み心をとめてください。わが主、わが神よ、わたしの叫びの声をお聞きください。わたしはあなたに祈っています。主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたのためにいけにえを備えて待ち望みます。」(詩篇 5 : 1—3)

質問

一日の最初の務めは何であるか。人は何のために朝祈るべきであるか。

答え

朝の最初の言葉

「朝、まず最初に、イエスの御臨在を心に感じるべきである。『わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである』と彼は言われるのである。われわれが必要とするのはイエスで

ある。彼の光と命と霊がたえずわれわれのものでなければならぬのである。われわれは毎時彼を必要とするのである。そして丁度太陽が山水を照らし、世界を光で包むように、義の太陽が心の部屋に輝き、主にあつてわれわれすべてを光にしてくださいるように、われわれは朝祈るべきである。一瞬たりとも彼の臨在なくしては、われわれは行動することができないのである。敵はわたしたちが主なくしてなそうと企てる時を知っていて、不動な足場から落ちるように彼の悪いほのめかしで、われわれの心を満たそうとしているのである。しかし、主の願いは、われわれが一瞬一瞬彼の中にあつて完全な者になることである。」(My Life Today・15)

あなたの最初のつとめ

「毎朝、神におのれをささげ、これを最初のつとめとして、次のように祈りましょう。『主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお用いください。どうか、私と共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあつてなさせてください』と。これは毎日のことです。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をかれにお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのです。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのであります。キリストにある生涯は、平和な生涯であります。感情の興奮はないかも知れませんが、いつも変わらない平和な信頼をもった生活であります。」(キリストへの道・93, 94)

主よ、最善が尽くせるように助けてください

「この地上でわたしたちを悩まし、失望させた不思議な出来事

も、きたるべき国では明らかとなり、答えられそうにもないと思った祈りや、また実現しなかった希望も、わたしたちに最大の祝福であったことがわかる。どんな仕事でもすべて神のみ働きの一部であるから、たとえ、いかにいやしいことであろうと、神聖なものとならなければならない。そして、わたしたちの日常の祈りは、『主よ、最善が尽くせるように助けてください。もっとりっぱな仕事ができる方法を教えてください。力と快活な精神を与え、わたしの働きの中に救い主の愛の奉仕が実行できるようにしてください』と言うのでなければならない。』（ミニストーリー・オブ・ヒーリング 458）

この世の食物と同じように必要な日々の祈り

「神に受け入れられる品性を養いたいと思うなら、信仰生活に正しい習慣が形成されなければなりません。肉体の健康のためにこの世の食物が必要であるように、日々の祈りは、恩恵の中に成長するためにも、また霊的生命そのもののためにも必要です。たびたび祈って、自分の思いを神にまで高める習慣をつけなければなりません。」（青年への使命・108）

祈りのテーマ

父よ、第一のことを第一とすることができるようにお助けください。イエスが現実に来てくださって、わたしがいつも最善を尽くせるようにお助けください。



3 祈りの時を見出す事の困難

聖書の宝石

「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ、主を待ち望め。」
(詩篇 27 : 14)

質問

人はどのようにして瞑想と祈りの時を見出すことができるか。

答え

見守ることの必要

「あなたは見守っていないなければならない。さもなければ人生に於ける活動の忙しさは、あなたを祈りが与えてくれる力が最も必要な時に、それを無視するようにさせてしまう。信心には仕事に熱心になりすぎて、大切な心の問題が押しのけられるという危険がある。天来の力と知恵は、あなたが要求するのを待っているのに、これについて心を鈍らせることは大いなる悪である。あなたには、神のみが与え得る啓発が必要である。この知

恵がなくては、誰も与えられた仕事を運びゆくのに適していない。」(5T・560)

祈りは力の源泉である

「祈りはあなたの力のみなもとであることを記憶しなさい。もし働き人が急いで祈りをおわって、何かを無視していたり、忘れていたりしていたものはないかと心配しながらそれら进行处理するために、かけ出してゆくならば、成功は収められない。彼は、わずかの落ちつきのない考えを神に述べるだけで、心身の力を更新されるために、考え、祈り、かつ主を待ち望んで時間をとることをしない。間もなく彼は疲れてしまう。彼は向上させ、靈感を与える神のみ霊の感化力を感じないのである。彼は新しい生命によって力づけられることがない。彼の飽きあきした気分と疲れ果てた頭脳とは、キリストとの個人的な接触によって和らげられることがない。」(7T・243)

祈りは落ち着きのない外面的な働きによって無視される

「信徒が増すにつれて、その都度増加してゆく必要に応ずるため、より広い計画が立てられねばならない。しかしながら、特にあつい敬神の念や、クリスチャン的な単純さ、又は真剣な献身などの増し加わっているのを我々は見ていない。教会はただ悔い改めの最初の段階をふみこむことだけで満足しているように見える。彼らはへり下った献身よりも活動的な働きのためにより多く準備しており心の内側の働きよりも外部的な宗教活動にたずさわるためにより以上の用意をしている。祈りと瞑想とは落ち着きのない外面的な働きのために無視されている。宗教は心をからにして潔めることから始まるべきであり、又、日毎に祈りによって養われねばならない。」(4T・535)

祈りの欠乏は最大の過失をまねく原因となる

「もし忙しい働きが日毎に主を求める目的から、私共をかりたてることを許すならば、それは最大の過ちを犯すのである。即ち、主が共に居られないので我々は様々な損失を招くこととなる。我々は主が我々の魂への通路を見出し得ないように心の戸を閉じたのである。しかし、もしも我々が自分の手が働いている間でも祈るならば、主は耳を開いて我々の祈りをきかれる。もし我々が力の源から離れまいと決心すれば、主も同じく我々が敵の前に辱められることのないように、助けようとして我々の右に居る事を決心して下さるのである。キリストの恵みは我々のあらゆる努力が失敗に帰する事をも、我々のために成しとげることができる。神を愛し畏れる人々は多くの心配ごとに囲まれるかも知れない。しかし、その足はよろめいたり、曲がった道を作ったりはしない。神はあなたをその責任のある場所に於いて助けて下さる。けれども、行き慣れた祈りの場所に、是非出来るだけしばしば行くようにしなければならない。」(CH・424)

何ものにも聖書研究と祈りをさまたげさせぬようにせよ

「たとい親しい者、また、愛する者であっても、何ものにもあなたの心と感情を奪って、聖書の研究や、真剣な祈りをさまたげさせてはならない。」(8T・53)

祈りのテーマ

愛する父よ、願わくは祈りの重要さが、私の計画の中で第一のものとなるように私に印象づけて下さい。



祈りに対する熱心

聖書の宝石

「だから、互いに罪を告白し合い、又、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈りは、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)

質問

我々は如何にして熱心に祈りを捧げる経験に入る事ができるか。

答え

熱心な絶えざる祈り

「もし人類の救い主である神の子でさえ、祈りの必要をお感じになったのであるならば弱い罪深い人間には、どれほど熱心な、絶えざる祈りがなければならぬことでしょうか。」

「私どもの天の父は、あふれるばかり祝福を私どもに与えたいと待っておいでになります。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、私どもの特権であります。それなのに私どもが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことでありましょう。神は、その子らのどんな卑しい者であっても、心からの祈りに

はいつでも耳を傾けようとしておいでになります。」(キリストへの道・127, 128)

「祈りは、全能の神の無限の資財が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵であります。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょうか。」(同書・129)

信仰をもって祈りなさい

「信仰は感じではない。真の信仰は自己の推定とは全く別なものである。自己推定はサタンのもたらす信仰のにせ物であって真の信仰を持つ者のみがこの自己推定というにせものにあざむかれる事がない…」

「うかつに宗教を語ること、魂の飢えと、生きた信仰なしに、祈りを捧げることは何の効果ももたらさない…」

「多く的人是は信仰と見解とははきちがえている。しかしながら、救にあずかる信仰とは、キリストを受け入れ、自ら神との契約関係を結んだ者の取引である。純粹の信仰は生命である。生きた信仰は活力と全的信頼の増加を意味し、それによって魂を勝利者とならせるものである。」(GW・260, 261)

根気よく求め続けることの価値

「一度だけ求めよ、そうすれば、与えられるであろうと、神は、言っておられない。神は求めよと命じておられる。根気よく祈り続けなさい。求め続けることは、祈るその人をもっと熱心にし、求めているものに対する願いを更に増大する。キリストは、ラザロの墓で、マルタに次のように言われた。『もし信じるなら神の栄光を見るであろう』と(ヨハネ 11:40)。

しかし、生きた信仰を持たない者が多い。彼らがなぜ、もっ

と神の力を見ることができないかは、それに起因している。彼らが弱いのは、不信仰の結果である。彼らは、神が彼らのために働いてくださることよりも、自分自身の働きのほうを信じている。彼らはなんでも自分で処理しようとする。いろいろ考えてはみるが、ほとんど祈ることをせず、神に対する真の信頼に欠けている。自分では信仰があるように思っているが、それは、一時の衝動にすぎない。彼らは、自分たちの必要、あるいは神が、喜んで与えようとしておられることを認めないために、主のみ前に彼らの願いを述べつつ、耐え忍ぶことをしないのである。わたしたちの祈りは、夜中にパンを求めた友人のように熱心に忍耐強く求め続けなければならない。熱心に不屈の精神をもって祈れば祈るほど、キリストとわたしたちの霊的結合は親密になる。」(キリストの実物教訓・124)

サタンは戦いに敗北する

「サタンはもし一人の魂を失う危険があると見れば、それを失うまいとして最大限に全力をつくす。しかし、もしもその危険の中にある人が屈することなく、その弱さのまま自己をキリストの血のいさおしに委ねるならば、救主は信仰から出る熱い祈りに耳を傾けて彼を救い出すために、力の優れた天使達の援軍を送って下さるのである。サタンはこの強力なライバルが訴え求められることに耐えることができない。なぜなら、彼は主の権力と威厳の前に恐れおののくからである。熱烈な祈りの声をきいて、サタンの全軍はふるえあがるのである。」(IT・345, 346)

祈りのテーマ

「わたしを祝福してくだらないなら、あなたを去らせません。」(創世記 32:26)



何を祈り求めるか

聖書の宝石

「わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。」(ヨハネ第一 5:14)

質問

必ず与えられるという確信をもって、神に求めることのできるものとは何か。

答え

主が約束されたものを求めよ

「神のみことばの中の約束はみな、主がみことばをもって保証を与えておられるのであるから、その一つ一つが、わたしたちの祈りのテーマとなるのである。わたしたちに必要な霊的祝福は、なんであっても、イエスを通して求めることがわたしたちの特権である。…

わたしたちは主にいのちのパンとキリストの義の衣を求める

のと同じように、パンや衣服などのこの世の物を主に申し上げることができる。

あなたの天の父は、これらすべてのものが、あなたに必要であることを知っておられる。あなたは、それらについて神に求めるように招かれているのである。」(祝福の山・165, 166)

わたしたち自身の必要のために

「すべての魂は、自身の特別な必要を、主に申し上げる特権と、日毎にうけている祝福に対して、個人的に感謝を捧げる特権を持っている。」(9T・278, 279)

神の御業のために

「御業についての種々の関心は、我々の祈りの反省や靈感となるのである。」(4T・459)

聖霊のために

「今日、多くの祈りの必要がある。我々が生存しているこの時代は、求める者にとって聖霊の時代である。神の祝福を求めなさい。我々がもっと熱心に献身しなければならぬ時である。主は我々に主を求めることを期待して居られるのである。」(TM・511, 512)

力と知恵のために

「主に助けを願う時、その祝福を必ずうけると信じて救主をあがめなさい。その時、あらゆる力、知恵は、わたしたちの求めに応じて自由に与えられるのである。わたしたちは、ただ求めればよい。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・500)

「我々は、誤謬と疑惑のこの時代に立ち得るよう天からの知恵

を求めなければならない。」(EV・87, 88)

神のみことばの理解のために

「祈りを怠っては、一日、一時間たりとも安全ではない。特にわれわれは神のみ言葉を理解する知恵を祈り求めなければならない。聖書の中に、サタンの策略が示されている。またそれに対抗する手段も教えられている。サタンは巧みに聖書を引用し、彼自身の解釈をほどこして、われわれをつまづかせようとする。」(各時代の争闘下巻・276)

この時代の理解のために

「わたしたちの生存している時代の理解、神の御目的のより完全な把握、そして救霊における能率促進のために、極めて熱心に祈りなさい。」(2SM・400)

完全のために

「主はなし得る限り完全になされた主の御働きをご覧になることを愛されるのである。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典 1 巻・1108)

今日神の奉仕の業にたずさわる人々に

「その働きが完全になされるよう知恵と鋭い洞察力を主に祈り求めさせなさい。」(同書 1 巻・1108)

祈りのテーマ

おお主よ、あなたの約束の中に、わたしの救のためになされている一つ一つの準備を感謝いたします。



霊性復興の必要

聖書の宝石

「だから、あなたがたの罪の記録が抹消され、力を新たにする時が主のもとから来るように、悔い改めてあなたがたの生活を一新しなさい。」(使徒行伝 3:19, ウエイマス訳)

質問

教会の大きな必要は何ですか。それはどのようにして満たされますか。

(以下を参照のこと。詩篇 138:7, ホセア 6:1-3, ルカ 24:49, マタイ 28:19, 20, 使徒行伝 1:4-8; 2:1-4, 14-18, 1SM・121-128)

答え

霊性復興

「われわれの間における真の敬虔の復興はわれわれの必要とするすべてのもののうちで最も大きく最も緊急を要するものである。これを求めることが、われわれの第一の務めでなければな

らない。主の祝福を得るために真剣な努力が払わなければならない。これは神がわれわれの上に快く祝福を与えて下さらないためではなく、われわれにそれを受ける準備ができていないためである。地上の親がその子らに良い賜物を与えるのにも増して、天の父は求める者に快く聖霊をお授けになる。しかし、告白と、謙遜と、悔い改めと、真剣な祈りによって、約束の祝福が与えられるための条件を満たすことは、われわれの務めである。復興は祈りへの解答としてのみ期待されなければならない。」(ISM・121)

あらゆる障害が排除されなければならない

「主が衰えゆく教会と悔悟しない会衆に聖霊を注ぐことができるように、神の民があらゆる障害を取り除いて道をきれいにすることほどサタンの恐れるものはない。サタンが道をふさいで思い通りにできるのであれば、以後は時間の終局まで大小いかなる覚醒も起こらないであろう。しかしわれわれは彼の策略に無知なのではない。われわれは彼の力に対抗することができる。神の霊のために道が備えられるとき、祝福は来る。サタンは雨が地上に降らないように天の窓を閉じることができないのと同じく、祝福のしゅう雨が神の民の上にくだらないようにこれを妨げることができない。神の民が打ち砕かれ和らげられた心で罪を告白しこれを捨て、信仰によって神の約束に訴えるなら、悪しき者たちも悪霊も神のみわざを妨げたり民の集まりから神の臨在をしめ出したりすることができない。」(同書・124)

祈りへの解答

「みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めると

きに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。」（各時代の希望下巻・158）

結果

「み霊は、祈りながら待っていた弟子たちに臨み、ひとりびとりの心を十分に満たされた。無限なる神が、力をもって教会にご自身を現されたのである。この力の現れはもう何年ものあいだ、差しとどめられていたかのようにであったが、今こそ、天は、み霊の恵みの富を教会に注ぐことができることをよろこんだ。そして、み霊の感化のもとに、悔い改めや告白のことばが、罪をゆるされたさんびの歌と交替した。感謝の声があがり、預言のことばがきこえた。全天は崇敬の思いでこの比類のない、無限の愛に輝く知恵を見守り、あがめた。使徒たちはわれを忘れて『ここに愛がある』と叫んだ。彼らは与えられた賜物をしっかりと握りしめた。それから何が起こったであろうか。み霊の剣は、新たに力できざまされ、天来の電光に輝いて、不信仰な者へと突き進み、一日に幾千もの人々が改心した。（患難から栄光へ上巻・32）

祈りのテーマ

「主よ、この年のうちにこれ [あなたのみわざ] を新たにしてください。」（ハバクク 3:2）



7 前の雨と後の雨

聖書の宝石

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しむ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように秋の雨と春の雨とを降らせられる。」(ヨエル 2 : 23)

質問

後の雨のための必要な準備は何であるか。

答え

前の雨の必要

「聖霊がそそがれるとき、前の雨をうけず、またその価値を認めなかった者は、後の雨の価値を知ることも理解することもできないことは確かである。」(TM・399)

「雨や露が、まず種を発芽させ、それから、収穫物を成熟させるために与えられるように、霊的な成長を一段一段と進めるために聖霊が与えられるのである。

もし前の雨がその働きをなさなかったならば、後の雨は、種を完成することができない。」(同書・506)

「多くの人々が前の雨をうけるのに失敗したのである。彼らは神がお備えになったすべての恩恵をうけなかったのである。彼らはその不足を後の雨が満たしてくれると期待する。そして豊かな恵みが与えられるとき心を開いてそれを受けようとする。彼らは恐ろしいあやまりをしている。…われわれが活動的なクリスチャンの徳を日々実証していないならば、後の雨における聖霊のあらわれを認めることはできないであろう。聖霊はわれわれの心のまわりにそそがれるかもしれないが、われわれはそれを見分けたり受けたりすることができないであろう。」(同書・507)

「すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。…それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。」(教育・135)

「聖霊のバプテスマが必要、われわれが必要としているのは、聖霊のバプテスマである。これがなくては、われわれは、主の十字架後の弟子たちと同様に、世に出て行くにふさわしくない。イエスは彼らの欠乏を知っておられ、天よりの力で満たされるまでエルサレムにとどまっているようにお語りになった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年2月18日)

「弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、われわれも聖霊の降下を熱心に祈るべきである。」(5T・158)

「常に用意しているように。私は聖霊の降下がいつかというはっきりした時を知らない—おおいなる天使が天から下り、三天使とともに世界の最後の働きをするときを。私の訴えはともしびをともし、天よりの聖霊の降下に備えていることが唯一の安全であるということである。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・7巻・984)

祈りのテーマ

「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜る。」(ゼカリヤ 10 : 1)



聖書の宝石

「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返し
て言うが、喜びなさい。」(ピリピ 4:4)

質問

世界は悲しみと悲劇で満ちている。私達はどういうわけで喜ぶのか。

答え

賛美は天のふんいきである

「賛美の調べは、天のふんいきである。天が地に交わるときに、そこには音楽と歌—『感謝と歌の声』とがある。」(教育・186)

イエスは歌をもって試練に応じたもうた

「イエスは、地上生活において、歌をもって試練に応じられた。心を刺すような鋭い言葉を浴びせられたときにも、いんうつと不満と疑惑と圧迫的な恐怖のために、まわりの空気が重苦しかった

たときにも、イエスの信仰と聖なるはげましの歌がきかれた。」
(教育・194)

み言葉の研究、瞑想と歌

「彼は神のみことばを研究されたが、一番幸福なときは、働き場から離れて神とまじわることのできる時だった。早朝どこか人の居ない所で、瞑想したり聖書をしらべたり、あるいは祈りをしておられることがよくあった。また歌いながら朝の光を迎え、感謝の歌で働く時間を愉快地にし、働きに疲れた人や失望した人に、天来の喜びをお与えになった。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・30)

失望に対して歌をもちいる

「歌は失望するときいつでも用いることのできる武器である。救主より出る光に心をうち開くとき、健康と祝福を受ける。」
(同書・232)

感謝の気持ちは健康を増進させる

「感謝と讃美の精神ほど心身の健康を増進するものはない。憂うつ、不満な気持や思想に抵抗することは祈ることと同じように積極的な義務である。」(同書・228)

勝利の道

「イスラエルの国民が荒野の旅にあって、聖歌の音楽によって道中を励まされたように、今日も、神はご自分の民が人生の旅を楽しくするように命じておられる。神のみ言葉を記憶するには、それを歌にしてくり返すことが何よりも効果的な方法である。このような歌はふしぎな力を持っている。」(教育・197)

「救い主がわれわれを神の栄光の照り輝いている天国の入り口に導かれるとき、み座のまわりにある天の合唱隊のささげる賛美と感謝の調べが聞こえて来るであろう。この天使たちの歌声が地上の家庭に反響するとき、われわれの心は天の歌手たちにひきつけられるであろう。天の交わりは地上から始まる。われわれは、この世にあって、天の賛美の基調を学ぶのである。」(教育・198)

希望と信頼の歌

「地上の最後の大きいなる危機の影が深まっていくときに、神の光は最も明るく輝き、希望と信頼の歌は最もはっきりと、そして最も高らかな調べとなって聞かれるであろう。」(教育・196)

祈りのテーマ

「主をほめたたえよ。わが魂よ、主をほめたたえよ。わたしは生けるかぎりには主をほめたたえ、ながらえる間は、わが神をほめうたおう。」(詩篇 146 : 1, 2)



9 祈りと信頼

聖書の宝石

「わが魂は言う、『主はわたしの受くべき分である。それゆえ、わたしは彼を待ち望む』と。主はおのれを待ち望む者と、おのれを尋ね求める者にむかって恵みふかい。主の救いを静かに待ち望むことは、良いことである。」（哀歌 3：24-26）

質問

私はどのようにして望みをしっかりと抱き、動揺しない確信を保つことができるか。

答え

主にあって憩う

「天の父はわたしたちが想像さえできぬ多くの道を備えられている。神の働きを最も高いものとする法則を受け入れる者は、いろいろの困難が消滅し、平らな道が開けてゆくのを発見する。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング・465）

「キリストにある生涯は、平和な生涯であります。感情の興奮はないかも知れませんが、いつも変わらない平和な信頼をもった生活であります。自分に望みがあるのではなく、キリストに望みがあるのです。自分の弱さはキリストの力に、無知はキリストの知恵に、もろさはキリストの持久力と一つになります。すると、私どもは自分を眺めて自分のことばかりを考えないでキリストを眺めるようになるのであります。キリストの愛を瞑想し、その性格の美しさ、完全さを心にとめて考えましょう。キリストの自己犠牲、キリストのへりくだり、又その比類なき愛を魂の瞑想課題といたしましょう。キリストを愛し、キリストにならぬ、全くキリストに頼ってこそ、私どもはキリストのみかたちに変えられるのであります。」(キリストへの道・94, 95)

ささげられた生活

「もし、わたしたちが、神のご用のために自分をささげているならば、神は、なんの備えもなさらないようなところへ、わたしたちをおかれることはない。わたしたちがどのような境遇にあっても、導き手であられる主がわたしたちをお導きくださる。どんな問題であっても主は確実な相談相手である。また、どんな悲しみ、死別のなげき寂しさの中にあっても、同情にあふれた友なるイエスがわたしたちとともにおられる。無知のために足をふみすべらすようなことがあったとしても、キリストはわたしたちを、おすてにはならない。『わたしは道であり、真理であり、命である』と言われる主のみ声が、はっきりと聞こえてくる。」(キリストの実物教訓・154)

「キリストの心の中は、神との完全な調和に支配されていたので、完全な平安があった。彼は称賛に得意になったり、酷評や

失望に落胆したりなどされなかった。最も激しい反対と最も残酷な仕打ちのただ中であっても、イエスは勇気を失われなかった。しかしキリストに従う者であると自称している人々の中には、不安で心配な心を持っている人が多いが、それは彼らが自分自身を神にまかせきれないからである。」(各時代の希望中巻・51)

「神は、彼に信頼する者のために、大きなことをなさる。神を信じると言っている人々に、もっと力がないのは、彼らが自分たち自身の知恵に頼りすぎ、主が、彼らのためにみ力をあらわす機会を主に与えないからである。しかし、彼らが、全く主に信頼し、忠実に彼に従うならば、どのような事態が起こっても、主は、主を信じる子供たちをお助けになる。」(人類のあけぼの下巻・115, 116)

祈りのテーマ

「主はわが力、わが楯。わたしの心は主に寄り頼む。わたしは助けを得たので、わたしの心は大いに喜び、歌をもって主をほめたたえる。」(詩篇 28:7)



10 祈りと崇敬の念

聖書の宝石

「主は聖なる者の会議において恐るべき神、そのまわりの者にまさって大いなる恐るべき者です。」(詩篇 89 : 7)

質問

真の神への崇敬を幾人の方が学ぶでしょうか。霊的成長にとって崇敬の念はなぜ大切でしょうか。

答え

神の偉大さと臨在を意識する

「神に対する真の崇敬の念は神の無限なる偉大さを感じ、神の臨在を意識することによって喚起される。どの子供も目に見えない神についてのこの観念を心中に深く刻みつけなければならない。敬神の念を表し、神に喜ばれるには、神が仰がせたもうたことに従うよりほかに道はない。」(教育・305)

心からくる服従

「すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってそれは

心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやこころざしと一体となり、われわれの心と思いを一つにしてご自分のみこころに一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。

意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知るとはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる。」（各時代の希望下巻・150）

謙虚と崇敬の念

「神のみ前にくるすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならない。われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話しかけるような言葉を用いる人がある。また、神の家の中において、地上の王たちの謁見室では決してしないような不謹慎な態度をとる人がいる。これらの人々は、自分が今、セラピムたちが賛美をささげ、み使いたちもそのみ前にあって翼をもって顔をおおう神のみ前にあるということをおぼえていなければならない。」（人類のあけぼの上巻・286）

神は祈る場所に臨在し給う

「祈りの場所と時間は聖なるものである。というのは、神がそこにいまし給うからである。態度と振る舞いに崇敬の念が表さ

れるとき、それを生気づける感情は更に深められていく。『そのみ名は聖にして、おそれおおい』と詩篇記者は述べた。天使達は、そのみ名を語るとき顔をおおう。それでは、墮落した罪深い我々はどんな敬虔さをもって、それを口にすべきであろう！」(GW・178)

敬虔さは神の聖所

「謙虚にして信じる魂にとって、地上における神の家は天の門ともいうべきものである。讚美の歌、祈り、キリストの代表者によって語られる言葉は、天の教会、更に崇高な礼拝に民を備えさせるところの神によって定められた手段である。そしてその礼拝には、けがれたものは何一つとして参与することが出来ない。」(5T・491)

神のみ名とみ言葉に対する敬虔さ

「神のみ名に対してもまた、崇敬の念を示さなければならない。神のみ名を軽々しく、考えなしに口にしてはならない。」(教育・305)

我々は神のみ言葉を敬うべきである

「聖書に対して崇敬の念を示し、これを凡俗のことに用いたり、不注意に取り扱ってはならない。」(同書・305)

祈りのテーマ

聖なるお父様、私が祈るとき、あなたのご臨在を意識させて下さい。謙虚さと恐れとをもって、あなたを敬うことができますように。



11 祈りと勤勉

聖書の宝石

「すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。気をつけて、神の恵みからもれることがないように、また、苦い根がはえ出てあなたがたを悩まし、それによって多くの人汚されることのないようにしなさい。」(ヘブル 12 : 14, 15)

質問

今日、わたしが接触する人々にいかにしてキリストを現すことができるか。

答え

神を敬う生活の証

「品性は力である。真実で無我の信心深い生活の無言のあかしは、どんな人をも感化しないではおかない力を持っている。わたしたちの生活の中に、キリストの品性をあらわすことによ

て、わたしたちは、救霊の働きをキリストと共にするのである。わたしたちが、キリストと協力できるのは、わたしたちの生活に、キリストの品性をあらわすことによつてのみである。そして感化の範囲が広ければ広いほど、それだけ、善をなす範囲も広い。

神に仕えるという者が、その日常生活において、律法の原則を実行して、キリストの模範に従うとき、すなわち、何をして、その行為によつて、彼らが神を何ものよりも愛し、隣人を自分のように愛していることを示すときに、教会は、世界を動かす力をもつようになるのである。」(キリストの実物教訓・316)

内部から輝き出るものである

「真の品性は、外部から形づくられて着せられるものではなく、内部から輝き出るものである。もしわれわれが人を義の道にみちびこうと望むなら、義の原則がわれわれ自身の心のうちに宿っていないてはならない。」(各時代の希望中巻・12)

誰も否定できない議論

「他人に及ぼすわれわれの感化は、われわれの言うことばよりは、われわれの人格次第である。人々はわれわれの訴えに抵抗するかもしれない。だが利害を超越した愛の生活は、彼らの否定できない議論である。キリストの柔和が目立っている矛盾のない生活は、世における一つの力である。…神のみことばが、そのみことばによつてきよめられた人によつて語られるとき、それはいのちを与える力を持っていて、聞く人をひきつけ、みことばこそ生きた現実であることを確信させる。人が真理を愛してこれを受け入れるとき、それはその人の信念のある態度と声の調子にあらわれる。」(各時代の希望上巻・162)

本当に知っていることを語る

「キリストの証人として、われわれは知っていること、自分が見、聞き、感じたことを語るのである。もし一步一步イエスに従ってきているならば、われわれは、イエスがわれわれをみちびかれた道について何か要点にふれたことを語るができるのである。イエスの約束が真実であったことを語るができる。キリストの恵みについて知ったことをあかしすることができる。これこそ主が求めておられるあかしであって、このあかしが欠けているために、世の人々は滅びつつあるのである。」(各時代の希望中巻・66)

われわれを取りまく雰囲気の影響

「人はだれでも他に感化を及ぼすものである。信仰、勇気、希望などの生き生きとした愛のかおりを放つものもあれば、あるいは、不平とわがままのために、重苦しく、冷たく憂うつで、心の中にひそむ罪の毒気を放っているものもある。わたしたちは、だれでも、このように自分のまわりに、一種のふんい気をもって、意識的に、または、無意識に、接する人びとに感化を及ぼしているのである。」(キリストの実物教訓・315)

祈りのテーマ

「われらの神、主の恵みを、われらの上にくだし、我らの手のわざを、われらの上に榮えさせてください。われらの手のわざを榮えさせてください。」(詩篇 90 : 17)



12 神のみ顔を仰ぐ

聖書の宝石

「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう。」(マタイ 5:8)

質問

神を見るためには清い心が必要であるが、幾人の人がそれを得ることができるでしょうか。

答え

キリストの生涯に倣うことによって

「神がその領域において清いように、人間もまたその領域において清くあるべきである。そして人間の内に栄光の望みであるキリストが形造られるならば清くなるのである。即ち彼は、キリストのご生涯に倣い、そのご品性を反映するのである。」(GW・366)

家庭と心に宿る聖霊

「清められて、その清さにとどまるためには、セブンスデー・アドベンチストの信徒は、彼らの家庭と心の内に聖霊を宿していなければならない。」(9T・164)

「もし今までにわれわれの生活と心に神のみ霊の働きが必要な時があったとすれば、それは今である。清潔でしかも没我の生活に生きるための力を求めて、この神の力をしっかりと捕らえよう。」(6T・166)

キリストが支配される

「偉大な教師と協力して働くときに、我々の知的能力は発達する。良心は神の導きの下にある。キリストは人の全人格をご自身の支配下におかれる。新たにして豊かな思想が各人に訪れる。知性には光を、意志には決断力を、良心には鋭い感覚を、想像には清潔が与えられる。」(同書・476, 477)

この地上で清い心を

「神の都には汚れたものは何一つ入れない。その住民となるすべてのものは、この地上で心の清いものになっていなくてはならない。イエスに学んでいる者の中には、不注意なふるまいや、不適當な言葉や、下品な思いに対する嫌悪が徐々に強まってくる。キリストが心の中に住まわれる時、思いと行為が純潔になり、洗練されるのである。」(祝福の山・30)

キリストを見上げる

「神の都に入り、栄光のイエスを仰ぐ者になりたいと願うなら、この地上にある間に信仰の目をもってイエスを仰ぎ見る習慣をつけなければならない。キリストのみことばと品性をたびたび

私どもの思考と会話のテーマとし、特に毎日一定の時間をこれらの聖なるテーマについて祈り、かつ瞑想するためにささげなければならない。」（青年への使命・107）

神のみ姿に成長する

「イエスをながめることによって、いっそう明らかに神を見ることができるようになり、わたしたちは、ながめることによって変えられる。同胞に善を行ない、彼らを愛することは、わたしたちにとっては自然に行なう本能となる。そして、神の品性と全く同じ品性を自分たちの中に形成する。こうして、神のかたちにまで成長することによって、神を知る能力もますます増加する。」（キリストの実物教訓・331）

神のみ前にいるかのように生活する

「心の清いものは、神が彼らにこの世で生を与えておられる間、神が目の前におられるかのように生活する。そして来るべき不死の状態において、彼らもまた顔と顔をあわせて神を見るのである。」（祝福の山・33）

そのとき、神と顔と顔をあわせて相みる

「神のみ姿は、鏡の中にうつるように、自然のわざと人間に対する神の摂理の中に反映している。しかしその時には、直接に顔をあわせて神を見るのである。」（生き残る人々・485）

祈りのテーマ

「主よ、われわれが美しく飾った主を見ることができるよう、心を備えさせて下さい。」（イザヤ 33：17）

13 あなたを知るために

聖書の宝石

「永遠の生命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ 17:3)

質問

イエスについての救いを与える知識は、どのようにしてわたしの個人的な経験となるか。

答え

聖書研究によって

「聖書は真理の完全な標準であって、これに教育上最高の位置があたえられなければならない。名実ともに価値ある教育を身につけるには、聖書に啓示されている創造主である神と救い主であるキリストについての知識をうけ入れなければならない。神のみかたちにかたどってつくられた人間のひとりびとりに、創造主の能力に近い能力一個性、すなわち、思考し行動する能

力がさずけられている。」(教育・6)

「神のご品性の完全さを心に思い続けるとき、精神は新しくなり、魂は神のみかたちに再創造される。…神がその子らにお望みになる理想は、人間の考えのおよばないほど高いものである。神のようになること、すなわち神のみかたちに似ることが、到達しなければならないゴールである。」(教育・7,8)

経験的知識

「ああ、われわれは、知らねばならない程に神を知っているであろうか。神がわれわれに、学ぶことを望んで居られる教訓を日毎に学ぶならば、どんな慰め、どんな喜びをもつことであろう！われわれは神を経験的な知識によって知らねばならない。われらの天の父を個人的に知るためには、もっと密室での祈りの時をもつことが有益である。」(MM・102)

神のみ像に再創造された魂

「キリストのうちに、あらわされている神の知識は、救われた者が皆持たねばならないものである。それは品性を変化させる知識である。この知識を受けるとき人間は神のかたちに似て再創造される。それは全身に神聖な霊の力を与える。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・401)

聖書の預言を研究せよ

「聖書の預言を研究すべきである。そしてキリストのご生涯と預言者たちの書き物とを比較しなければならない。キリストは再三、それらはわたしについて書かれている、それらはわたしについて証している、と言われて、ご自分と予言とを同一視された。聖書はキリスト・イエスについて、確実な描写を提供する唯一の書物である。すべての人は、聖書を彼らの教科書とし

て学び、それに従うならば、一人として失われる者はいないであろう。」(FEC・382)

み言葉は生命を生み出す

「すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限りない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。」(教育・136)

神との語らい

「いつも、主を目の前にあおいで、主に感謝と賛美をささげているならば、わたしたちの信仰生活は常に新鮮さを保つことができる。わたしたちの祈りは、ちょうど友人と語るように、神との会話のかたちになる。」(キリストの実物教訓・109)

祈りのテーマ

「主よ、あなたの道をわたしに教えて下さい。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」(詩篇 86:11)

14 自己中心の祈り

聖書の宝石

「求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。」(ヤコブ 4:3)

質問

私達の祈りが自己中心的なものである時、どうして知ることが出来るか。

答え

高慢で利己的心から出た祈り

「あなたの高慢はあなたの滅びになるおそれがある。…あなたの祈りは高慢と利己主義でみちた心から捧げられている。」(2T・176)

「神は、少しでも貪欲や利己心をお許しにならない。そして神は、このような悪癖にふける者の祈りや勧告を憎まれる。サタンは、自分の時が短いのを知って、人々をますます利己的で貪

欲になるようにしむける。そして、彼らが、閉鎖的になり、物を出し惜しんで、利己的になるのを見て喜ぶのである。」(初代文集・435)

利己的祈り

「パリサイ人と取税人の誓いの中で、『わたしはほかの人たちのよう…でないことを感謝します』という独善的祈りは、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』という悔い改めた人の願いといちじるしい対照をなしていた。」(各時代の希望中巻・297)

「彼らは高慢であって、己を義とするようなやり方で祈ったり語ったりパリサイ人のように事実上自分等がほかの人たちのような者でないことを感謝するのである。」(1T・416)

「一方、高ぶっておのれを義としていたパリサイ人の祈りは聖書の働きに対して心を閉じていたことがわかります。…かれは必要を感じなかつたので、何も受けることができませんでした。」(キリストへの道・35)

賛辞を得ようとする望み

「パリサイ人は礼拝をするために宮に上るが、それは自分がゆるしを受けなければならない罪人であることを認めたからではなく、自分をただしと思ひ、神の賞賛を受けようと思うからである。彼は、自分の礼拝を、何か神の前に自分をよく思われるようにする行為でもあるかのように考える。…そして、彼は、自己称賛の念に満ちている。それが態度にも、歩きぶりにも、祈りにもあらわれている。」(キリストの実物教訓・130)

「わたしたちが罪をゆるされ、平和を与えられるためには自分を知らなければならない。つまり、わたしたちを悔い改めに至らせる知識がなければならない。パリサイ人には、罪の自覚が

なかった。聖霊は、彼を動かすことができなかった。パリサイ人の魂は、自分の義というよろいをまとっていたので、天使の手が放つ鋭い矢も、それをさし通すことができなかった。」(同書・137)

キリストを仰ぎ見よ

「心の貧しさを神に訴えながら、自分がどんなにけんそんで義に富んでいるかを誇るができる。…キリストをながめることである。人びとが自分の義を誇るのは、キリストを知らないからである。…

取税人の祈りが聞かれたのは、彼が手を伸ばして全能の神にしっかりとすがる信頼を示したからである。取税人にとって自分というものは、恥辱以外の何ものでもなかった。すべて神を求めるものは、これと同じでなければならない。哀れな嘆願者はすべての自己過信を否定する信仰によって、無限の能力を自分のものとしなければならない。」(同書・138, 139)

うぬぼれの危険

「ペテロを失敗におとしいれ、パリサイ人を神との交わりに入れさせなかったその罪が、今日、幾千という人を滅びにおとしいれている。高慢とうぬぼれほど神がおきらいになるものではなく、また人の魂を危険にさらすものはない。」(同書・134)

祈りのテーマ

父なる御神様、私が自分の心をさぐることができるようにお助け下さい。願わくは利己主義にうち勝ち、全く神様に献身した生活を送る方法をお教え下さい。

15 尊く大いなる約束

聖書の宝石

「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

質問

わたしの日常生活は、確信をもって神の尊い約束を期待できるほど、み心に調和しているだろうか。

答え

神の約束の目的

「神は信仰を持つようにと導くために、約束をみ言葉の中に置かれた。永遠という幕をあげて、勝利者を待っている永遠の重い栄光を約束の中に、かいまみせてくださる。」(My Life Today・338)

祈りは聞かれる

「聖霊によってつづられた単純な祈りは、少し開かれた門、キリストが、だれも閉じることのできない門を開いておいたと言われた、その門をとおって昇る。キリストの完全という香をもって混ぜ合わせられた祈りは、かぐわしいかおりとなって父のみもとに昇り、応答がやってくる。」(6T・467)

三位の神は助けられる

「父と子と聖霊の名によってバプテスマを受けた事実は、もしもあなたが神の助けを請い求めるならば、神の力はどんな緊急事態の時でも、あなたを助けてくださるという保証である。」(同書・99)

天使も同様に助ける

「天軍の保護は神の道に歩み、そのご計画に従うすべての者に与えられる。わたしたちは熱い悔い改めの祈りをもって、天来の助け手をそば近くに招くことができる。光り輝き、力に満ちた見えない軍勢は、けんそんで柔和で高ぶらない者と共に働く。」(1SM・97)

非常時に与えられる助けの約束

「人込みの中で労苦しながら仕事をしている人々は、神の導きを祈り求めることができる。海陸の旅をする人々も、大きな危険にさらされるときに、このようにして天の神の保護に身をゆだねることができる。突然困難や危機が訪れた場合には、彼を信じる忠実な者の呼ぶ声に答えて、いつでも来て助けるとみずから約束なさったかたの助けを呼び求めればよいのである。」(国と指導者下巻・234)

変わらない愛

「神と毎日交わっている者が、たまたま道を誤ったり、または、しっかりと見つめているはずのイエスから目をそらすようなことがあったとしても、それは彼が故意に罪を犯したというのではない。なぜならば、彼は自分の誤りに気づいたとき、立ち返ってイエスに目を注ぐからである。また彼が間違いをしたからといって、彼に対する神の愛が、いくらかでもへらされるというものでもない。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1896年5月12日)

信仰をもって約束にすぎ

「イエスは真実だろうか？お語りになったとおりに、なされるだろうか？答えは決定的に然りである。ひと言ひと言がそうである。もしもそうと決まったならば、神の約束されたことを、すべて信仰をもって請い求め、祝福を受けなさい。信仰をもって受けることにより、魂は命を与えられる。神の子等の中で自分は最も弱く、また最も価値がないと感じる時でも、イエスはあなたに対して真実であると信じるがよい。」(TM・517)

祈りのテーマ

いつも神の御目に喜ばれることができるように助けてください。また、神の尊く大いなる約束の成就を認めることができるようにしてください。



16 仮屋の奥

聖書の宝石

「それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。」(詩篇 27:5)

質問

悩みの時がきたときに、神の保護をいただくため、私はどんな備えをしなければならないだろうか。

答え

主なる神はこう言われる

「サタンがわたしたちの思いに、彼の考えを押しつけるとき、もしもわたしたちが『主なる神はこう言われる』を心のうちに蓄えているならば、わたしたちは、いと高き者のひそかな仮屋にかくまっていたいただくことができる。」(6T・393)

真理の知識は確かな保護者

「真理の知識を熱心に求め、服従によって魂を清めるために励み、こうしてその戦いに備えて自分にできるところを行なっている者は、真理の神が確かな保護者であられることを見いだす。『忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも……あなたを防ぎ守ろう』と救い主は約束しておられる（黙示録 3:10）。主は、ご自分に頼る魂が一人でもサタンに打ち負かされるままにしておくくらいなら、ご自分の民を守るために天からすべての天使を遣わしたいと思っておられる。」（各時代の大争闘下巻・316）

聖霊は防壁

「神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞的な力に対する防壁として、聖書がさし示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためにはあらゆる手段を用いる。なぜなら聖書の明白な言葉は彼の欺瞞を暴露するからである。神の働きが復興されるたびに悪の君は奮起していっそう激しく働く。彼は今やキリストとその信徒たちに対する最後の闘争に最大の努力を傾けている。まもなく最後の大きい欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。…偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。…聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の争闘に耐え抜くことはできない。」（各時代の争闘下巻・358, 359）

記憶への召し

「イエスは、『助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわれる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわ

たしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう』と弟子たちに約束された（ヨハネ 14:26）。しかし、危機の時に、神のみ霊がわれわれにキリストの教えを思い起こさせてくださるためには、それをあらかじめ心の中にたくわえておかねばならない。」（各時代の大争闘・下巻・367）

ぱっと思い出させる

「神と、神がおつかわしになったイエス・キリストとを知るために日々熱心に努力するときに、魂には力と能率とが与えられる。聖書を熱心に研究することによって得られた知識は、ちょうどよい時にぱっと思い出される。しかしもしだれでもキリストのみことばを知ることが怠っていたら、またもし彼らが試みの時にキリストの恵みの力をためしていなかったら、彼らは、聖霊がキリストのみことばを思い出させてくださることを、期待することはできなかった。彼らは日々二心のない愛情をもって神に仕え、それから神に信頼するのであった。」（各時代の希望中巻・88）

…と書いてある

「神が試み、そしてためされた人々は…『…と書いてある』という生きた言葉で身構えるべきである。」（9T・16）

祈りのテーマ

愛する父よ、私を終わりにいたるまで守ってくださる尊い御約束を感謝します。あなたのみ言葉を蓄えることができるように助けてください。

17 根気のよい祈り

聖書の宝石

「絶えず祈りと願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、全ての聖徒のために祈り続けなさい。」（エペソ 6：18）

「失望せずに常に祈るべきことを。」（ルカ 18：1）

質問

熱心さと忍耐について、どのような教えが与えられているか。

答え

常に祈りなさい

「つねに祈り、忠実に見張っていなければ、私どもは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険があります。敵は恵みのみ座への道をさえぎっています。」（キリストへの道・129）

何物もさまたげとなつてはならない

「どんなに親しいもの、愛すべきものであつても、それにあなたの心や愛情を奪われ、神の言葉の研究と熱心な祈りを妨げられてはならない。」(8T・53)

「聖潔は忘我の境地ではない。それは意志を全く神に従ふことである。それは神のみ口から出る一つ一つのことばで生きることであり、天の父なる神のみこころをなすことである。」(患難から栄光へ上巻・47)

熱心な祈りは効果的である

「神の御霊がわれわれと共にあり、レバノンの杉がまっすぐに香ばしいようにわれわれをきよめ、聖なるものとしてくれるという強い強い確信を持たねばならない。」(GW・272)

「熱心な、信じる心から出る祈りは大いに益するところのある、効果ある、熱い祈りである。神は必ずしも、われわれが期待しているようにはわれわれの祈りに答えて下さらない。というのは、われわれが最も良きものを求めないことがあるからである。しかし神の無限の愛と知恵のうちにわれわれが最も必要としているものを神が与えて下さるのである。」(4T・531)

結果を神にまかせなさい

「神が約束されたことを神はいつでも実行することが出来る。神がその民に与え給う働きを、神は彼らによってなしとげることがおできになる。」(CH・378)

「神はわれわれの祈りに対して、必ずしもわれわれが求める時に、求めるような方法でお答えにならない方が良いのである。」(同ページ)

「わたしたちの願いごとは命令のかたちをとるべきではなく、求めるものを主がして下さるようお願いするかたちをとるべきである。」(同書・379)

根気のよい祈りの模範

「ペンテコステの日に無限なる方が御自身を教会にあらわされた。…弟子たちの心は深い、測ることの出来ない愛に満たされ、彼らを地の果てに証する者として出て行かせた。神は私たちが主イエス・キリストの十字架以外のものを誇ることを禁じておられる。」(7T・31)

「熱心な、根気強い祈りを通して、彼らは聖霊の賜物を受ける。そして彼らは魂を救おうとする重荷を負って出かけて行き、十字架の勝利を伝えようとの熱意で満たされている。」(同書・32)

「神の御霊は今日熱心な根気強い祈りに答えて人々を力で満たすために来ないであろうか。」(同ページ)

「主がその時代にその民になし給うたことは、今日主の民のためになおさら必要なことである。」(同書・33)

祈りのテーマ

天のお父さま、いつも私の心を上にあるものに向け、まわりのものがどんなに邪魔しても、根気よく祈れるようにお助け下さい。



18 祈りと瞑想

聖書の宝石

「わたしはあなたの定めを喜び、あなたのみ言葉を忘れません。」(詩篇 119:16)

質問

どうすれば、私は、ダビデの経験を私のものとすることができるか。

答え

われわれは、服従すべきである

「聖書についての真の知識は、このみ言葉をあたえられた聖霊の助けによってのみ得られる。そしてこの知識を身につけるには、これを生活に実践しなければならない。われわれは神のみ言葉の命ずるすべてのことに従わなければならない。神のみ言葉によって約束されているすべてのものをわれわれは自分のものとして要求することができる。」(教育・224)

祈りを通して理解する

「聖書は祈りなしに研究すべきではない。聖霊だけが、理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、あるいは理解の困難なものを曲解しないように守る。われわれがみ言葉の美しさに心をひかれ、その警告に戒められ、み約束によって活気づけられ、力づけられるように、心を備えさせて神のみ言葉を理解させるのが、天使たちの働きである。」（各時代の争闘下巻・367）

誠実な意図

「聖書の真理に対する理解は、研究に払われる知力によるよりは、むしろ誠実な意図と、義を熱心に追い求める心とにかかっているのである。」（各時代の争闘・下巻・366）

神の愛を瞑想する

「神は、わたしたちが、神の愛とあわれみをめい想し、偉大な救済の計画の中にひめられた、神の驚くべきお働きを研究することを望んでおられる。そうすれば、わたしたちの真理に対する認識は、ますます明りようになっていく。そして、純潔と明快な思想に対するわたしたちの願いがますます強まってくる。清い思想をいだき、純潔なふんい気の中に宿っている魂は、聖書を研究して、神と交わることによって、変えられていくのである。」（キリストの実物教訓・38）

光の中を歩め

「たえず神の光の中を歩みなさい。昼夜をとわず、神の品性に思いをはせなさい。そのとき、神の美を見、その恵みを喜ぶ者となる。心は神の愛を感じて燃えあがり、ちょうど永遠の腕でささえられたかのように高くあげられ、神の与えられる力と光によって、いっそう理解を増し、今まで考えていた以上のこと

ができるようになる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・500)

救い主の完全さを瞑想せよ

「救い主の完全さを瞑想するとき、私どもも全く変えられて救い主の純潔なみかたちに造りかえられたいと望み、あがめまつる救い主のようになりたいと飢えかわくごとく願うようになります。キリストのことを考えれば考えるほど、キリストのことを他の人に話すようになり、世の人々にキリストを代表する者となります。」(キリストへの道・121, 122)

世界歴史の最も厳粛な時代

「われわれは世界歴史の最も厳粛な時代に生存している。地上のおびただしい数の人々の運命が、決定されようとしている。われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、『主よ、わたしは何をしたらよいのでしょうか』と熱心にたずねるべきである。われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばきの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。一刻もむだにはできない。われわれの周囲には重大な事件が起こっており、われわれはサタンの魔法の働いている場にいるのである。」(各時代の争闘下巻・368, 369)

祈りのテーマ

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いが、あなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19：14)

19 祈りにおける天使の奉仕

聖書の宝石

「それだから、主の言葉を聞きなさい。わたしは主がその王座に座し、天の万軍がその左右に立っているのを見た。」
(歴代志下 18 : 18)

質問

祈りにあたって、天使たちは、どんな奉仕をするか。

答え

天使たちは祈りを神にささげ、また、それらを記録する

「毎日毎日、毎時毎時、イエスを見、気をつけて祈りをする人々は、イエスに近づいている。翼をひろげた天使たちは、悔い改めの祈りを神のもとにたずさえてゆき、それらを天の書にしるそうと待っている。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・4巻・1184)

答えるよう命じられる

「天使たちは、神のみわざのために己を空しくして働いている人々の祈りに答えるように命じられる。天で高い位を占める天使たちが、神のみわざの前進を求めて神のもとにのぼる祈りを実現するよう命じられる。各天使は、特別の義務の持ち場を持っており、他の場所へ行くために、そこを去ることは許されない。」(同書・1173)

ただちに従う

「奉仕する天使たちは、熱心な生きた信仰をもってささげられるすべての祈りに答えるため、イエス・キリストのご命令にただちに従うべく、みくらのまわりで待っている。」(2SM・377)

われわれを助けに来る

「われわれは信仰と祈りによって、われわれのそばに、天使たちからなる従者を呼ぶことができる。彼らは、すべての腐敗させる影響からわれわれを守るであろう。」(Our High Calling・23)

多くの祝福をもたらす

「天使たちはその明るく輝くはしごを絶えず上ったり下りたりして、求める者、苦しみ悩む者の祈りを神のみもとに携え行き、祝福と希望、勇気と助けを人の子らに運んでくる。」(患難から栄光へ上巻・163)

「キリストが備えていたもう能力と恵みは、み使いによって、信ずる魂一人びとりに与えられます。」(キリストへの道・68)

われわれの言葉を選び、われわれの行動に影響を与える

「あなたは、朝、起きる時、自分の力なさと、神からの力の必要を感じられるか。…もしそうなら、天使たちは、あなたの祈りに心をとめる。そして、これらの祈りが偽りの唇から出たのでなければ、無意識のうちに悪をなしたり、他の人を悪をなすように導くような影響力を及ぼしたりする危険にあなたがある時に、あなたの守護天使はあなたのそばにいて、あなたをよい道に行かせ、あなたのために言葉を選び、あなたの行動に影響を与えるだろう。」(3T・363, 364)

どうしてわずかしか祈らないのか

「神は、限りない愛をもって人類をみ心にかけ、いつでも私どもが求めたり思ったりする以上に与えようとしておいでになるのに、誘惑にさらされているあわれな力なき人間が格別祈ることに努めず、信仰うすき有様をみて天使たちはいったいどう思うことでしょうか。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにはべることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしています。それなのに、神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖書の光も神の存在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのであります。」(キリストへの道・128)

祈りのテーマ

愛する父上様、あなたの聖なる天使たちによって、私に与えられる勇気と力と助けを感謝いたします。いつも、彼らがそば近くいることを意識できますように。



もし神が既にご存じであれば、 なぜ祈るのでしょうか

聖書の宝石

「また祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞き入れられるものと思っている。だから彼らのまねをするな。あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。」(マタイ 6:7, 8)

質問

神はすでにわれわれの必要をご存じなので、世の両親がその子供たちに良いものを与えるにもまさって、喜んでわれわれに必要なものを与えて下さる。ではどうしてわれわれは神に祈り求める必要があるのだろうか。

答え

神は「求めよ、そうすれば与えられるであろう」と仰せになっているのでわれわれは求める。

「私どもの祈りは神がご存じない、なにごとかを神にお知らせするということではありません。神はすべての人の心の思いをご存じであります。」(青年への使命・247)

「キリストから与えられる恵みは、祈りが口から出て、心の願いが述べられるその以前にすでに、人の心に働いている恵みに合流する。」(キリストの実物教訓・186)

「われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさずけられることが、神のご計画の一部である。」(各時代の争闘下巻・270)

求める者のために用意されている豊かな恵み

「神は、ただ神だけがお与えになることのおできになる助けを熱誠に求めつつある人々にお与えになることをお望みになって天の恵みを豊かにおもちになっている。」(SD・123)

「あなたが、あなたの魂の健全のために必要であるものを求めている時には、あなたはそれらを与えられ、そしてそれを所有するであろうことをも信じなさい。」(ML・16)

絶えず願い求めなさい

「一度だけ求めよ、そうすれば、与えられるであろうと、神は、言っておられない。神は求めよと命じておられる。根気よく祈り続けなさい。求め続けることは、祈るその人をもっと熱心にし、求めているものに対する願いを更に増大する。」(キリストの実物教訓・124)

気をつけなさい、でないとあなたは魂を欺きとられる

「あなたは警戒せねばならない、でないと日々の忙しい活動そのものが、祈りが与えるはずの力があなたに最も必要な時に、

祈りを怠るようにあなたを誘惑する。…あなたの要求を待っている力と天の知恵とを魂から欺きとることは大なる悪である。」(5T・560)

「神があなたに行いなさいと言われていたことは、そのように行いなさい。そして神が仰せになっていることはなしたもうはずですから神は全てをなし給うと確信しなさい。」(Our High Calling・97)

祈りは神のみ心を変えません

「わたしたちのこうした必要感が、熱心に神に祈りをささげさせ、そして天の父は、わたしたちの嘆願を聞いて心をお動かすになる。」(キリストの実物教訓・153)

「わたくしどもが熱心な祈りによって求める時にのみ、神はわたくしどもの心の願いを受け入れて下さいます。」(GW・255)

祈りを通して力を求めなさい

「神のみ働きに対する多くの勝利は苦心した議論の結果ではない。…それらは神との謁見の密室において得たものである。」(同ページ)

祈りのテーマ

おお神よ、生命と真理と道でいましたもうあなたによって、私どもはあなたのみもとにまいりました。あなたご自身が歩みたまうた祈りの道…。主よ、私たちに祈ることをお教え下さい。

21 感情は基準ではない

聖書の宝石

「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起こる様々な教えの風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、愛によって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ 4:14, 15)

質問

祈りたいという気が起こらない時、どのように祈ったら良いのでしょうか。いやでも自ら強いて祈るべきでしょうか。

答え

信仰的な生活を送っているという感じは基準にならない

「多くの方は信仰生活を送るにあたって自らの感情の動きに絶えず注意を払い、自分が成長しているか、あるいは退歩しているかをそれによって判断しているが、それは大きな誤りである。

感情の動きは間違いのない基準ではない。私たちは神が受け入れていて下さることの確証を自らのうちに求めべきではない。そこには、私たちを失望させるもの以外には、何もないであろう。私たちの唯一の望みは『信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見る』ことのうちにある。」(5T・199, 200)

私たちは感情に欺かれることもある

「感情はしばしば欺くもので確かな守り手ではない。それは変化し、外的な状況に左右されるからである。多くの人々は感動的な印象に頼ろうとして欺かれている。『あなたはキリストのために何をしているか』『どんな犠牲を払っているか』『どのような勝利を得ているか』などということが問題である。利己的な精神に克服し、義務を怠ろうとする誘惑に耐え、激情をしずめ、キリストのみ旨に心から、喜んで従うことなどは、一時的な敬虔や感情的な信仰よりも、はるかに力強く、あなたが神の子であることを証明するものである。」(4T・188)

感情より原則が大切である

「クリスチャンは喜びに満ちた感情の高まりを過大に評価したり、またそれに頼りすぎてはならないことを私は示された。こうした感情の動きは必ずしも正しい導き手ではない。クリスチャンは全て感情によって支配されるのではなく、原則に従って神に仕えることを学ばなければならない。そうするならば信仰が働き、また増すであろう。もしクリスチャンが、へり下って、自己犠牲の生活を送るなら主にある平和と喜びが伴うであろうことを私は示された。

最大の幸福は他人に善を行い他人の幸福をはかることのうち
に得られる。そうした幸福は永続する。」(1T・161)

感情は欺きがちである

「サタンは、改心とは、一種の歓喜の興奮状態であると人々に思いこませようとしています。しかし、彼らの実際生活の経験は変化しません。その行為はこれまでと変わりません。その生活は少しも良い実を結びません。彼らは幾度も長い祈りを捧げ、これこれの時にこういう気持を感じたと始終口にします。しかし新しい生活を送っていません。彼らはだまされているのです。その経験は、ただ気分だけで、それ以上の深いものがないのです。彼らの家は、砂の上に建てられているので、あらしが吹けば吹き倒されてしまいます。…

キリストを信じる者は、『恐れ、おののいて自分の救いの達成に努め』なければならないという事実を、彼らは見逃しているのです。罪を自覚した者は、次にしなければならないことがあります。彼は悔い改めて、真の信仰を示さなければなりません。…

新しい心のしるしは何でしょうか。それは生まれ変わった生活です。そこには、日々に、時々刻々に、利己心と高慢に対する死がなければなりません。」（青年への使命・61, 62）

祈りのテーマ

とこしなえの父よ、自らの感情に頼って、あなたがそば近くいまし給うことを語ることをしないで下さい。あなたのみ言葉の確かな約束に従ってあなたを受け入れることができますように。私の思いがうち沈んでいる時にもあなたは変わらずそば近くいまし給うことを知り得ますように。



22 祈りはどのように答えられるか

聖書の宝石

「彼らが呼ばないさきに、わたしは答え、彼らがなお語っているときに、わたしは聞く。」（イザヤ 65：24、ダニエル 9：23 参照）

質問

神は真摯な祈りにどのように答えられますか。

答え

常にあなたの益となるように

「幾度も求めなさい。そうしたら与えられるでしょう。謙遜、知恵、勇気、また信仰が増し加えられることなどを求めなさい。すべての真摯な祈りは答えられる。それはあなたが望んだようにはならないかもしれないし、あるいは期待している時には来ないかもしれない。しかしそれは、あなたの必要を十分に満たすのに最もふさわしい時に、ふさわしい方法で実現される。あなたが孤独で、疲れ、試みにある時に捧げる祈りに神は答えて

下さるが、それは常にあなたの益のためにであって必ずしもあなたが期待する通りになるのではない。」(GW・258)

霊の生命を強める

「私たちはキリストの功によって天国を得ようと努めるときに成長する。私たちは信仰の導き手でありまたその完成者であるイエスを仰ぎ見ながら力から力に進み、勝利に勝利を得るのであるが、それは神の恵みがキリストによって私たちの全き救いを完成したからである。」(ISM・364)

行動を起こすようにとの命令の中に

「イエスは私たちを彼に従うように召されていながら、捨てるようなことはなさない。もし私たちが彼に仕えるために生命をささげるなら神は決して何の備えもないような状況に私たちを置かれぬ。どのような状況にあっても、私たちには進むべき道を教える導き手がある。…

『祈りのとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう。』(GW・263)

不安を静めることのうちに

「あらゆる力をふりしぼって上を見上げなさい。困難なことに目をとめてはなりません。そうするなら道のかたわらで気を失うようなことは決してないでしょう。やがて、あなたを助けようとしてその手をのべていらっしゃるイエスを雲のかなたに見つけるでしょう。あなたがすべきことはただ単純な信仰をもってあなたの手を彼にゆだね、彼に導いて頂くことだけです。」(5T・578)

罪の赦しの確証のうちに

「悔い改めた罪深い人間を、愛の腕にいだいてその傷を包み、罪から彼らを清め、救いの衣を彼らに着せることは、神の栄光なのである。」(国と指導者下巻・268)

神と共にあるという意識のうちに

「天の王であるイエスは彼のもとに、自らの重荷、弱さ、わずらいなどをたずさえてくる者を友人としてくださるといわれる。
...

日々イエスと共に静かに、近く、また楽しく歩むことは私たちの特権である。」(Our High Calling・97)

神のみ摂理を通して

「信仰をもって祈るならば、神のみ摂理の奥義は必ず応答をもたらす。」(7T・245)

キリストは私たちの祈りをご自分の願いとしてとりつがれる

「神の子が恵みの座に近づくと直ちに彼は偉大な弁護者への依頼人となる。彼が罪を悔い、赦しをこい願う言葉を語り始めると、キリストは彼の罪を引き受け、自分の罪とされ、キリスト御自身の願いとして父の前に懇願されるのである。」(6T・364)

祈りのテーマ

私は主に頼って慰めを受けます。私は主を讃えます。私は勝利を与えて下さった神にあって喜び楽しみます。

23 服従と信仰は祈りの聞かれる条件

聖書の宝石

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。」（イザヤ 55：6，7）

質問

祈りが聞かれる条件は何ですか。第一の条件は何ですか。条件に合った祈りをしていますか。

答え

必要を感じなければならない

「神が私どもの祈りを聞き、それに答えたもうには一定の条件があります。まず第一に、私どもは、神の助けが必要なことを感じなければなりません。」（キリストへの道・129）

全的献身が必要

「心とからだと魂を神にささげる者はだれでも体力と知力の新しい賜物をたえず受けるであろう。天の尽きることのない補給は彼らの思いのままに与えられる。…キリストとの協力によって、彼らはキリストのうちにあって完全であり、人間的な弱さのうちにあっても全能者の行為をなすことができる。」(各時代の希望下巻・377, 378)

服従が必要

「祈りは、義務を行うことの代わりにはならない。…祈りのときに、こうした条件に従わないでいて、神の約束が果たされることを求める者は、神を侮辱する者である。彼らは、キリストの名を唱えていれば、神の約束が実現するものと思っているが、キリストを信じていることと、キリストを愛していることをあらかず行為を示さないのである。」(キリストの実物教訓・120)

「神はすべての祝福の与え主であられる。その神が、わたしたちのすべての所有の一部を要求なさる。…しかし、神ご自身のものを自分のところに保留しているならば、どうして神の祝福を求めることができようか。もしわたしたちが、この地上のものに不忠実な管理者であるならば、どうして、天のものをゆだねられることを期待することができようか。祈りにこたえない理由はここにあるのではなかろうか。」(キリストの実物教訓・121, 122)

「もし部分的な、心からでない服従であるならば神の約束は果たされない。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・204)

信仰はもう一つの条件

「力ある祈りのもう一つの要素は信仰であります。…私どもは、み言葉をこの通り受け入れているのでしょうか。」（キリストへの道・131）

「われわれは、あまりにも信仰がなさ過ぎる。私はあなた方を主により頼む信仰にお導きできたならと思う。信仰を働かせるためには、高い興奮状態にならなければならないと感じるべきではない。お互いの言葉を信用するように、神のみ言葉を信じまつることがなすべき全てである。神がおっしゃったからには、神はそのみ約束を果たされる。静かに神のみ約束に頼りなさい。神は本気で言っておられるのである。こう祈りなさい、『あなたのみ言葉に約束しておられます。あなたは約束を全て果たされます…』と。天の父なる神を信頼しきって実行しなさい。」（ISM・83, 84）

祈りのテーマ

父なる神さま、私の信仰を増して下さい。あなたのみ言葉通りに行えるようにお助け下さい。私の祈りが物質的なことのみにとどまることはありませんようにお守り下さい。

告白と赦しの精神が必要

聖書の宝石

「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」
(マタイ 6 : 14, 15)

「そのとき、イエスは言われた、『父よ、彼らをおゆるし下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』」(ルカ 23 : 34)

「互いに情け深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互いにゆるし合いなさい」(エペソ 4 : 32)

質問

「われわれに悪を行ったり害を加える人々を赦すその度合がわれわれが神に赦しを期待できる度合である。従って『自分は心に赦しの精神をどの程度持っているか』という質問が重要にな

る。」

答え

神の恵みは私ども如何である

「神のあわれみと祝福を求めるときは、私どもの心のうちに愛とゆるしの精神を持っていなければなりません。『わたしたちに負債のある者をゆるしたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください』(マタイ 6:12)と祈りながら、他人をゆるさない気持を持っていられるでしょうか。もし、自分の祈りが聞かれるように期待するならば、自分がゆるされたいと望むような態度と程度で、同じように人をゆるさなければなりません。」(キリストへの道・133)

誰かに悪事を行ったらどうするか

「もし友人や隣人をつまずかせたならば、自分は悪かったとこれを認めてあやまるのです。そして、これをころよくゆるすのはその人の義務であります。そうしたあとで神のゆるしを求めなさい。というのはあなたが傷つけた兄弟は神のものですから、彼を傷つけたことは、彼の創造主、またあがない主に罪を犯したことになるからであります。」(同書・46)

「もし知らずに偽った証を立てたり、兄弟の言葉を誤って伝えたり、あるいは何らかの点で兄弟の感化力を損ねたなら、それを話した人々の所へ行って誤って述べたために兄弟を中傷することになった言葉を全て取り消すべきである。」(祝福の山・73)

「意図するところが正しかったからと言って、告白しなくてもよいという理由にはならない。」(初代文集・198)

真の告白は明確

「真の告白は常に、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表すのであります。神にだけ告白すべきものもありましょう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもありましょう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともありましょう。告白は全てはっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばなりません。」
(キリストへの道・47, 48)

罪が見つかる前に告白しなさい

「事実が証明されたあとで、それを認めることと、神とわれわれだけに知られた罪を告白するのとは、非常な相違がある。」(人類のあけぼの下巻・122)

「アカンがなしたような告白をする人がいる。しかし彼らを救うにはもう遅すぎる。」(3T・272)

祈りのテーマ

天のお父さま、あなたは、あわれみを喜ばれる神であられることを感謝いたします。他人に罪を犯した時、それを認める勇気を与えて下さい。

あなたが私をゆるして下さるようにならぬ他人をゆるすことにおいてイエスさまの模範に従えますようにお助け下さい。

25 いやしのための祈り

聖書の宝石

「あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。」(ヤコブ 5:13)

質問

私どもの主はかつて人としてこの地上にいらっしゃった時と同じく、今日も病気のいやし主でいまし給うだろうか。

答え

キリストは今でも偉大なる医師であられる

「わたしたちの主イエス・キリストは人類の必要に応じられるためにうむことのないしもべとしてこの世においでになった。彼は人類の全ての必要に奉仕なさるために、『わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負』われた。(マタイ 8:17)」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・3)

「神は健康のときも病気のときも等しく避けどころである。『父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれ

まれる…（詩篇 103：13）…そのみ言葉をつかわして、彼らをいやし、彼らを滅びから助け出された（詩篇 107：20）。聖霊は詩篇記者を通じてこれらの言葉を語ったときと少しも変わらず今日も神は病める者に喜んで回復を与えようとしておられる。そしてキリストも地上で伝道されていたときと同じように今もなおあわれみ深い医者である。キリストの中に全ての病をいやす乳香があり、あらゆる病弱から回復する力がある。」（同書・202, 203）

いやしの源

「すべての人間に神がお望みになることは、『愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている』（ヨハネ第三 1：2）とのみ言葉に表現されている。『あなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを墓からあがないだし、いつくしみと、あわれみとをあなたにこうむらせ』になるのはキリストである。（詩篇 103：3, 4）」（同書・82）

神との協力が必要である

「医者は患者に、健康を回復するためには神と協力しなければならないことを教えなければならない。…そして、自然の法則は十戒のいましめと等しく神聖なものであって、それに従うことによってのみ健康は回復し、維持されるものだということもわかっている。更にまた、有害な習慣の結果として苦しんでいる多くの者は、健康を回復するために自分たちのできることをするならば健康になれるということも医者は知っている。病人には、その体力、知力、精神力を破壊するすべての行為は罪であること、また人類すべての益のために神が制定なさった法則

に服従することによって、健康は確保できることなどを教えなければならない。」(同書・83)

治療法の使用

「祈りによっていやされようと求めている者は与えられている治療法を用いるのを怠ってはならない。苦痛を和らげ、健康を回復する自然の働きを助けるために神が備えられた治療法を用いること、神と協力して回復に最も適する状態にすることは信仰の否定にはならない。神は生命の法則に関する知識を人間の力で得られるようになさった。この知識はわたしたちが利用するために手の届くところにおかれている。健康回復のためにはあらゆる手段、できる限りの好機を利用して自然の法則に調和するように働かなければならない。」(同書・209, 210)

苦悩における神の目的

「神のみ旨の中にあなたをなやました多くの苦悩は、あなたを恵みのみ座に近づける。」(4T・143)

祈りのテーマ

愛する主よ、私をしてあなたのみこころを受け入れせしめ給え、そして、あなたのみこころは常に最善であることを知らしめ給え。



26 いやしのための祈りは 厳粛なものである

聖書の宝石

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。」
(ヤコブ 5 : 14, 15)

質問

なぜ私どもはもっと多くの、いやしの賜物の実例を見ないのだろうか。

答え

いやしのための祈りは厳粛なものである

「神のみ言葉の中には病人の回復のための特別な祈りに関して

訓戒が与えられているが、こうした祈りは最も厳粛なものであって、慎重な考慮なしに行ってはならない。病人のいやしのための祈りは、信仰の祈りといわれるくらいであるが、単なる見せかけ以上にでない場合が多い。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・205)

狂信と偽りの奇蹟を行う人々に気をつけよ

『なぜ多くの病院が建てられる代わりに、病人の奇跡のないやしのための祈りがささげられないのですか』と人々は質問する。もしそうしたことがなされるならば、恐ろしい狂信が私どもの間に起こるだろう。」(EV・594)

『わたしにむかって「主よ、主よ」と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけがはいるのである。その日には、多くの者が、わたしにむかって「主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか」と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、「あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ!」(マタイ 7:21-23)。これらの人々はキリストに従う者であると公言するが、彼らの指導者なるキリストを見失っている。彼らは『主よ、主よ』と言う。彼らは彼らを通して癒される病人や他の驚くべき働きを示し、神の律法を守っている人々より、神の霊と力をもっと持っている主張するかもしれない。しかし、彼らの働きは、義の敵の監督下でなされている。その目的は魂を欺いて、服従、真理、義務の道から誘い出すために作られている。近い将来、この奇蹟を働く力がなお一層著しく現れるであろう。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA

いやしを要求してはならない、神のみ心に素直であれ

「私どもは男、女、子供たちの病床のまわりで一致して熱心に祈った。そして、私どもの熱心な祈りの応答として、彼らが死人の状態から私どものもとへ連れ戻されたと感じた。これらの熱心な祈りにおいて、私どもは積極的でなければならぬと考えた。そしてまた、もし私どもが信仰を働かすならば私どもは生命を求めなければならぬと考えた。私どもは『もしそれが神に栄光を帰せるならば』と言うようなことは神を疑っていることであると恐れて決して口にしなかった。私どもはあたかも死人から連れ戻されたような人々を心配しながら見守ってきた。私どもは健康になったこれらの人々の中のある人々―特に青年―が神を忘れ、自堕落になり、両親や友人たちに悲しみと苦痛を起こさせ、祈ることを恐れた人々にとって恥となったのを見てきた。彼らは神に誉と栄光を帰せるために歩まず、その不道德な生活によって神をのろった。私どもはもはや一つの道をとることをしまい。私どもの希望通りに主にして頂くように求めまい。もし病人の生活が神に栄光を帰することが出来るならば、私どもは彼らを生かして下さいと祈ろう。それも私どもの願いのままではなく神のみ心のままにと。」(CH・379)

祈りのテーマ

主よ、あなたのみ心に従わしめ給え、そしてあなたのみ名に栄光が帰せられますように。

27 応答は時として遅れる

聖書の宝石

「わたしは耐え忍んで主を待ち望んだ。主は耳を傾けて、わたしの叫びを聞かれた。」（詩篇 40：1）

質問

なぜ神は時々私どもの祈りの応答を遅らされるのか。

答え

遅れは信仰と誠実をテストする

「主を待ち望む者たちへの数々の尊い約束が聖書の中にある。私どもはみんな捧げた祈りの速やかな応答を望んでいる。そして、祈りが直ちに聞かれなると失望するように試みられる。…遅れは私どもの特別の恩恵である。私どもは私どもの信仰が本物で誠実であるか、または海の波のように変わりやすいものであるかを見きわめる機会を持っている。私どもは信仰と愛の強いひもで私ども自身を祭壇にくくりつけなければならない。そして、忍耐をしてその完全な働きをさせようではないか。」（CH・

遅れは反省の機会を与える

「神は私どもが祈ってすぐにはその祈りにお答えにならない。なぜなら、もし神がそうなさるとしたら、私どもは神が私どもにお与えになるすべての祝福と恵みを受け取る権利があると思ひ込んでしまうからである。何か悪を抱いていないか、罪にふけていないかと私どもの心を探る代わりに、私どもは不注意になり、神への信頼と神の助けの必要との自覚をなくしてしまうことになる。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・2巻・1035)

神はお忘れにならない

「結婚して以来、ザカリヤは男の子を与え給えと祈り続けていた。今や、彼もその妻も年老いていた。それにもかかわらず彼らの祈りは答えられないままであった。しかし彼はつぶやかなかった。神はお忘れになったのではなかった。神は彼らの祈りに答える定められた時をお持ちであった。そして状態は希望がないように見えた時に、ザカリヤは応答を得たのであった。…神はそのしもべたちの祈りをお忘れにならなかった。神は御自分のよい時に応答するようにその記録簿に記入しておられた。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・5巻・1114)

神が遅らせ給うのは常に私どもの善のため

「ラザロが病気であるとお聞きになってキリストが二日遅れになったのはそれを無視されたのでもなければ、御自分の務めを拒まれたのでもなかった。…これは私どもにとって励ましとなる。…私どもの祈りの応答は私どもが希望しているように早く来ないかもしれない。また、その応答は私どもが求めた通りの

ものではないかもしれない。しかし、もし私どもが信仰をなくしたり、失望したりしなければ、その子らに何が最善であるかをご存知の神は、私どもが求めたものよりもはるかに良いものをお与えになるであろう。」(SD・92)

決して遅れることがない一つの応答

「わたしたちが世的な祝福を求めて、祈るとき、その祈りの答は遅れるかもしれない…しかし、罪からの救いを願うときはそうではない。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・45)

私どもの祈りに対して直ちに応答がない時にはどうしたらよ いだろうか

「私どもの祈りが聞かれないように見える時も、御約束にかたく頼らねばなりません。なぜならば、祈りが答えられる時が必ずきて、私どもが最も必要とする祝福を受けることが出来るからであります。…知恵に満ちたもう神は、決して誤りたもうことなく、また、正しく歩む者に善きものを拒みたもうこともありません。ですから、たとえ祈りがすぐ答えられなくても、恐れず神に頼り『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイ 7:7) という神のかたい御約束に頼らなければなりません。」(キリストへの道・132)

祈りのテーマ

父よ、あなたが私にとってそれが善いことであるとお思になる時に、私の祈りへの答えを遅らせ給うことを感謝いたします。



28 祈りと試練

聖書の宝石

「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、私は金のように出て来るであろう。」
(ヨブ 23 : 10)

質問

私たちは日々の試みと将来の不安に対していかに応じていくべきか。

答え

…あなたの力はあなたの年と共に続くであろう

「われわれは、日々キリストに従うのである。神は明日のための助けをお与えにならない。神は、ご自分の子らが混乱することがないように、彼らに人生行路の方向を全部一度にお教えにならない。神は彼らが覚えて実行することが出来る程度にお語りになる。与えられた知恵と力は、現在のさし迫った必要のためである。」(各時代の希望・中巻・24)

神よりの慰め

「神は騒々しいこの世界の上に王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる静寂な永遠のかなたから最善とみられるところを命令されるのである。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・391)

神はあらゆる試みを計りたもう

「神は大いなる愛をもって、私たちのうちに聖霊による尊い徳を育成しようとしておられる。神が私たちに障害や迫害や困難の来るのをお許しになるのは、のろいとしてでなく、私たちの生涯の最高の祝福としてである。」(祝福の山・147)

「主はあらゆる試みを計り、すべての人を試みる炉の火を見守られる。」(同書・152)

すべての事が共にはたらく

「神の臨在がキリストを囲んでいたため、この世の祝福のために無限の愛によって許されたこと以外には、どんなこともキリストには起こらなかった。ここにキリストの慰めの源があり、それがまた、私たちの慰めである。キリストの霊で満たされている者は、キリストのうちに宿る者であり、その人に起こることはすべて、その臨在をもって彼をかこむ救い主から来るのである。主の許可なしには何ものも彼に触れることはできない。…あらゆる体験や境遇が私たちを益するために用いられる神の働き人である。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・473)

悲しみの中における働き

「かごの中の鳥は、真昼の間や、また他の声をきくときには、

飼い主が教えようとする歌を決して歌わないものである。これを少し、あれも少しと部分的に覚えるだけで、決して完全なメロディ全体を覚えぬ。しかし飼い主がかごをおおい、その鳥に教え込もうとする歌だけが聞こえる場所におくと、暗い中で鳥はその歌を全部覚えるまで何回も繰り返して歌い、ついに完全なメロディーを歌い出す。それから鳥を外に出すと、その後はいつでも明るみでその歌を歌うことができる。そのように神もその子らを取り扱われる。わたしたちに対しても教えようとなさる歌があり、苦悩の暗黒の中でわたしたちがそれを覚えてしまうと、その後はいつでもそれを歌うことができるのである。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・456)

イエスの愛の中に憩う

「苦痛のために精神が鈍ることもしばしばあるかもしれないが、そのときには何も考えないように努めなさい。イエスがあなたを愛しておられることはよくわかっている。イエスはあなたの弱さを理解されている。ただその腕に安らかに憩うことによってイエスのみ心がなされるのである。」(同書・229)

「試練が襲い、心労、困難、暗黒が魂を取り囲むように思われるときは、最後に光を見た場所を見なさい。キリストの愛と保護の下に安んじなさい。」(同書・227)

祈りのテーマ

「あなたの神、主なるわたしはあなたの右の手をとってあなたに言う、『恐れてはならない、わたしはあなたを助ける。』」(イザヤ 41:13)

29 心の迷う時、どうすればよいか

聖書の宝石

「あなたは全き平安をもって、心ざしの堅固なものを守られる。彼は、あなたに信頼しているからである。」（イザヤ 26:3）

質問

祈りの最中に、心乱れる時、これを、いかにして統一し得るか。

答え

呼び戻すこと

「肉体の健康のために、この世の食物が必要であるように、日々の祈りは、恩恵の中に成長するためにも、また、霊的生命そのものためにも必要です。たびたび祈って、自分の思いを神にまで高める習慣をつけないければなりません。もし心がさまよっていたら、それを呼び戻さねばなりません。忍耐強く努力することによって、習慣がつけばそれはついには容易になります。」（青年への使命・108）

努力の必要

「使徒は、心の腰の帯を締めなさいとっている。だから心を自由に活動させずに抑制しなければならない。固く決心して努力をすれば、自分の思いを守りそれを抑制することができる。」
(アドベンチスト・ホーム・49)

助けを求める祈り

「その人の霊的光がどんなに大きくても、また、どんなに神の恵みと祝福にあずかっても、常に主の前にけんそんに歩み、神がすべての思いを導き、すべての衝動を支配されるように嘆願しなければならないのである。」(人類のあけぼの下巻・19)

「キリストのみが思想を正しく導き得る御方である。」(両親、教師、学生への勧告・323)

絶えず警戒せよ

「神は、あなたに、神の愛に信頼するよう求め給う。また、あなたの思想が統治できなくならないよう、あなたの思想の門口に鍵をかけ、絶えず己が魂を守りなさい。」(SD・298)

神のみ声を聞く

「われわれは、神が心に語られるのを個人的に聞かねばならない。ほかの音がみな沈黙して静けさのうちに神の前に待つとき、魂の静寂は、神のみ声を一層明らかにする。神は『静まって、わたしこそ神であることを知れ』(詩篇 46:10)と、われわれに命じておられる。」(各時代の希望中巻・101, 102)

神のみ前にひざまずく

「公的と私的の礼拝の両方において、われわれが神に嘆願するときには、神のみ前にひざまずくのが、われわれの特権である。」
(国と指導者上巻・23)

「この行動は全魂、全身、全霊が真理の御霊に服従していることの証である。」(2SM・314)

「人は恵みのもとにあるものとして、また、恵みの御座のもとにかがむ嘆願者としてひざまずき、御前に来たらねばならない。」
(同書・315)

声高く祈る

「彼（イエス）は、さみしい山辺で夜通し祈りに費やされた。強き叫びと涙をもって御父に祈りを捧げられたが、これみな、われらのためであった。」(3T・379)

「熱烈なる祈りの声にサタンの全軍は、ふるえおののくのである。」(1T・346)

祈りのテーマ

主よ、あなたにならってあなたの思想を考える事を教えてください。



30 憶測的な祈り

聖書の宝石

「あなたはこの民のために祈ってはならない。彼らのために嘆き、祈ってはならない。またわたしに、とりなしをしてはならない。わたしはあなたの求めを聞かない。」(エレミヤ 7:16)

質問

憶測とは何か。祈りを捧げる時に、私はどのようにして憶測を防ぐことが出来るだろうか。

答え

憶測の定義 (独断的信仰)

「なぜなら独断的な信仰はサタンから出た信仰のにせものだからである。信仰は神の約束をわがものとし、従順という実を結ぶ。独断的な信仰もまた約束をわがものにするが、サタンと同じように、これを罪とがの言い訳に使う。信仰があったら、アダムとエバは神の愛に信頼し、神の戒めに従ったのである。ところ

が独断的な信仰のために、彼らは神の律法を犯し、神の大きな愛によって自分の罪の結果から救われると信じた。」(各時代の希望上巻・141)

「キリストを信じれば神に服従する義務はないという、いわゆる信仰は、信仰ではなく、憶測であります。」(キリストへの道・80)

「神がみ言葉の中でわれわれにお知らせにならなかったことについて推測や仮説をもてあそぶことは憶測である。」(ISM・173)

一般的な試練

「憶測は普通の誘惑であり、サタンはこれをもって人々をおそってくる。そうして彼は十回のうち九回までは勝利をしめる。キリストのあとに従うものであると自称し、自分の性癖のあらゆる罪との戦いに信仰をもってたずさわっていると主張している人がしばしば、非常に簡単に、彼らを汚れなく連れ返すには奇蹟が必要となるような誘惑に落ち込んでしまう。神の約束は私どもが無謀に危険のうちに急ぎ進みながら、あわてて求めるようなものではない。…これは最も目にあまる憶測である。」(4T・44, 45)

サタンはキリストを憶測で試みた

「そこでサタンは、キリストが神に全的に信頼している確証を与えるよう、また、彼が神の御子であるというキリストの信仰のもう一つの証拠を宮の上から飛び降りることによってサタンに示すよううながした…世の贖い主はサタンの提案によって、神の摂理を推測的に試みるようなことはなさらなかった。」(ISM・

「キリストは、彼を危険から救うために天の父が御力をあらわさなければならぬような困難に自己を置くことにより、彼の父のあわれみがいただけるかと憶測することを拒否された。」(同書・283)

祈りにある憶測

「祈りはいつも私どもが望むままに答えられ、または、望んでいるそのものが必ず与えられると考えるのは、独断もはなはだしいことであります。」(キリストへの道・132)

バラムの憶測

「バラムは、神のみ旨を行なうことを求めず、かえって自分の道を選び、主の承認を得ようとつとめたのである。今日も、同様のことをするものが数多くいる。彼らは、自分たちの傾向と一致しているならば、どんな義務も困難なく理解する。それは、聖書が明らかにし、環境と理性も共にそれをはっきり示しているのである。しかしこうした証拠が彼らの欲望と傾向に反するものであるため、彼らは、しばしば、それをないがしろにして、神のみ前に出て、自分の義務を知ろうとする。」(人類のあけぼの下巻・47, 48)

祈りのテーマ

「また、あなたのしもべを引きとめて、故意の罪を犯させず、これに支配されることのないようにしてください。そうすれば、わたしはあやまちのない者となって、大いなるとがを免れることができるでしょう。」(詩篇 19 : 13)

31 祈禱と公けの礼拝

聖書の宝石

「人々がわたしにむかって『われらは主の家に行こう』と言ったとき、わたしは喜んだ。」(詩篇 122 : 1)

「祈りを聞かれる方よ、すべての肉なる者は…あなたに来る。」(詩篇 65 : 2)

質問

祈りは公けの礼拝における非常に重要な部分であるが、私の祈りを神に受け入れられるものとするために守るべき原則は何か。

答え

神の御臨在の自覚

「献身的な愛をもち、敬けんさと神の念をもって、いかに神のもとに来るかという賢明なる知識が必要である。」(2SM・315)

「神に対する真の敬けんさは、神の無限の偉大さを感じ、神の御臨在を認識することにより高められる。見えざる方に対するこのような気持をもって、すべての人の心は深く印象づけられるべきである。祈祷の時と場所は神聖である。なぜならば神がそこにいましたもうからである。」(創世時代と父祖の生活・48, 49)

いつでも、どこでも、ひざまずけ

「公けの礼拝でもまた個人的な礼拝でも、神に私どもの願いをささげるときは、神のみ前にひざまずく義務があります。この行為が神にある私どもの信頼を示すのである。」(2SM・312)

敬けんさをもって神の名を語ること

「ある人々は普通の態度であたかも人間に話すように神にお祈りをささげることは謙遜のあらわれであるように考えています。彼らは『全能なる神』すなわち、恐るべき、神聖な言葉…それは畏敬の念をもった静かな音調でしか語れない言葉であるが、それを祈りの中に不必要にまた不敬けんに混同することにより神の名を汚しています。」(GW・176)

単純なる言葉を用いよ

「いつでも、公けの場所でも、家庭内でも、ひそかなところにおいても願い事がささげられるとき、むずかしい言葉は適当ではない。特に公けのお祈りをささげる人は、祈られていることを他の人が理解し、願いを共にすることができるよう、わかりやすい言葉を用いるべきである。」

「天において聞かれ、地上において答えられる祈りとは心に触れた信仰の祈りであります…」

「簡明さをもって主に私どもの必要を述べ、会衆がわれわれが祈りによって神に勝つことを学んだということを知るような信仰をもって神の約束を求め、主に私どもの必要を訴えるべきであります。」(同書・177)

私どもの祈りの本質

「私どもの宗教的な集まりにおいては、祈りにより、讃美により、すべての人々が私どもに単純に、真実を持って、神聖なる美をもって、神を礼拝しているという事を知るように、われわれの声はわれわれの父に対する崇敬の念を表現すべきである。」(CT・245)

時間の長さ

「公けにおける祈りは簡潔で要領を得たものであるべきである。」

「数分間は普通どんな公衆の祈禱でも十分な長さであります。」(GW・175)

祈りのテーマ

父よ、私のひそかな祈りと公けの祈りがあなたに受け入れられるものとなるために、あなたに近く生活できますよう助けたまえ。



32 家庭礼拝

聖書の宝石

「ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア 24 : 15)

「わたしは直き心をもって、わが家のうちを歩みます。」(詩篇 101 : 2)

質問

聖書時代における朝夕の献げ物と今日の家庭礼拝との間には何らかの関係があるだろうか。どんなに家庭礼拝は重要であるか。それはいかに行われるべきであるか。

答え

献げ物と家庭礼拝との関係

「朝夕の献げ物のために指定された時間は神聖なものと見なされ、全ユダヤ国民によって礼拝のための定められた時間として守られるようになった。…この習慣の中に、クリスチャンが学ぶべき朝夕の祈りのための模範がある。」(人類のあけぼの上巻・

416, 418)

「全宇宙は、朝な夕な、祈りをする家庭を眺める。そして、天使たちは贖罪の血を象徴する薫香を携えて神のみ前に近づくことができる。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・7巻・971)

保護は約束されている

「すべてのクリスチャン家庭において祈りと讃美の朝夕の献げ物によって神が尊ばれねばならない。朝夕、熱心な祈りと不屈の信仰とによって、彼らの子らの周囲に垣根をめぐらすことはクリスチャン両親の義務である。」(CT・110)

「天の神はそのような家庭を見過ごしにされて、祝福されないであろうか。否！確かに祝福される。奉仕する天使たちが、このように神にささげられた子供たちを保護されるであろう。」(同ページ)

祈らない家庭の悲劇

「祈らない家庭ほどわたしを悲しませるものをわたしは知らない。そのような家庭では一晩だけでも安心できない。もしわたしはその両親たちに彼らの必要と悲しむべき彼らの怠慢とを認識させる望みを持たなければ、その家に泊まらないであろう。子供たちが、彼らの前に神を恐れる模範がないために、両親らの怠慢の結果を現している。」(CG・518)

家庭礼拝は日毎の問題でなければならない

「家庭礼拝は事情によって支配されてはならない。あなたは、

時々、祈るのであってはならない。働きが忙しい時に祈りを怠ってはならない。そうすることによってあなたは、子供たちに祈りは特別に重要でないものであるかのように思われる。…主を礼拝することは楽しみでなければならない。」(ML・29)

子供のある家の家庭礼拝をどのようにもつか

「父親は、興味のある、わかりやすい聖書の個所を選びなさい。…質問するのもよろしい。熱心で興味深い説明を加え、また短い要を得た出来事を例え話として用いるのもよろしい。元気のある讚美歌を、少なくとも2、3節歌う。捧げる祈りは短く、要領を得たものであるべきである。家族全員に聖書を読むことに参加させ、神の律法を学び、しばしばそれを復唱しなさい。また子供たちに聖書の読む個所を選択させるならば、彼らの興味をそそるであろう。彼らに質問したり、質問をさせたりしなさい。」(CG・521, 522)

祈りのテーマ

父よ、われわれの家を祈りの家、天使たちが喜んで宿られる場所とするために、われわれを助け給え。



33 祈禱会の重要性

聖書の宝石

「万物の終わりが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」（ペテロ第一 4：7）

質問

祈禱会の目的は何か。21世紀の多忙なクリスチャンも出席する必要があるか。

答え

自分の義務に忠実になる

「祈りが捧げられる所へは、努めて機会あるごとに行かねばなりません。神と本当に交わりたいと求める人は、祈禱会に出席し、自分の義務を忠実に尽くし、できる限りの利益を得ようと思って熱心であります。彼らは、天からの光を受けるところへは出来るだけ機会をつくっていきます。」（キリストへの道・134, 135）

聖霊に満たされたクリスチャンは祈禱会に出席する

「神のみ霊が心に働いて、魂の宮から俗臭と快樂愛好の汚れを
潔め給うとき、すべての人は祈禱会に出席し、自分の義務を忠
実に尽くし、できる限りの利益を得ようと思って熱心になる。」
(4T・461)

祈禱会を好むように心を教育する

「今だかつて現したことがないような熱心さをもって永遠のため
に準備せよ。聖書を愛し、祈禱会を好み、瞑想の時、就寝中、
魂が神と交わる時を好むようにあなたの心を教育せよ。天の大
邸宅において、天国の聖歌隊と一緒に歌うことを望むならば、
天国に関心のある人になれ。」(2T・268)

祈禱会の目的

「共に集まる目的は何か。それは祈りによってわれわれの知っ
ているすべてのことを神に語ることによって神に伝えたり知ら
せたりすることであろうか。われわれは思想や感情の交換によっ
て、お互いに高め合うため、また相互の希望と抱負を知ること
によって力と光と勇気を得るために集まるのである。そして信
仰をもって捧げられる熱心な心からの祈りによってわれわれは
力の源なる神から爽快な気分と活力を受けるのである。このよ
うな集会は最も貴重な時でなければならない。また宗教的な事
に興味を持っているすべての人々にとって興味深いものとなる
ようにすべきである。」(同ページ)

祈禱会を興味深いものにする

「われわれの祈りやあかし会は時期にかなった特別の助けや励
ましとなるものでなければならない。これらの集会をできるだけ
興味深く、有益にするためにおのおのには何かなすべき事が

ある。神に関する事で毎日新しい経験を持つことにより、また、神の民の集会において、神の愛をためらわずに話すことにより、これを最善になすことができる。」(クリスチャンの奉仕・305)

「長々とした退屈な話と祈りはどこでも不適當なものであるが、特に交わりの集会においてそうである。このような祈りや話は天使や聞く人々を疲れさせる。われわれの祈りは短く要点をついたものでなければならない。」(4T・70, 71)

短い祈りを捧げよ

「すべての人は短い祈りを捧げることはクリスチャンの義務であると思うべきである。」(2T・578)

「1分あるいは2分間の祈りは普通の祈りとして十分に長いものである。」(同書・581)

祈りのテーマ

恵みに富み給う神様、願わくは自分の義務を忠実に尽くす者となり、祈りが捧げられる所へあらゆる努力をはらって行くことができるようにお助け下さい。

34 祈りにおけるキリストの苦悶

聖書の宝石

「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」(ルカ 22 : 44)

「イエスが〔心に〕苦しみもだえて、ますます熱心に〔けんめいに〕祈られると…」(詳訳聖書)

「イエスが一悩みのもだえが彼を襲っていた—そのためにいよいよ真剣に祈っておられると…」(ウェイマス訳)

質問

キリストはなぜ苦悶の祈りをささげられたか

答え

キリストは天使たちに来るべき苦悶を現された

「そのとき彼は、失われた人間のためにのがれの道を作られたことを、天使の万軍にお知らせになった。…〔彼は彼にお告

げになった]彼は数時間にわたって、天使たちも目を向けることができずその光景から顔を覆いかくすほどの恐ろしい苦悶をお受けになる。彼が受けられるのは単なる肉体の苦悶ではなく、からだの痛みとは比較にならない精神の苦悶である。全世界の罪の重量が彼の上にのしかかる。」(初代文集・260-262)

荒野におけるキリストの痛み

「イエスが荒野へは行って行かれたとき、彼は天父の栄光につつまれた。しかし栄光が去ると、彼は試みと戦うために残された。試みは刻々イエスに迫っていた。イエスの人間としての性質は、彼を待ち受けている戦いにしりごみした。四十日の間、彼は断食し、祈られた。飢えのために弱くなり、衰え、精神的苦悩のために疲れ、やつれはてて、『彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていた』(イザヤ 52:14)。」(各時代の希望上巻・126)

ゲッセマネにおける彼の痛み

「キリストが、人の魂のために払われる価について想いをめぐらしておられる姿を見なさい。苦悩のあまり、主は、神から遠くへ引き離されまいとするかのように、冷たい大地にすがりつかれる。」(各時代の希望下巻・178)

「しかしいま暗黒の勢力の時が来ていた。いまイエスの声は、静かな夜の大地の中で、勝利の調べではなく、人間の苦悩に満ちた調べに聞こえた。」(同書・181)

「神のみ子の人性はこの試みの時にたじろいだ。…恐るべき瞬間が来ていた。それは世の運命を決定する瞬間であった。」(同書・

十字架における苦悶の極み

「しかしいま、自ら負っておられる不義の恐るべき重さで、キリストは、天父のやわらぎのみ顔を見ることがおできにならない。この最高の苦悶の時に神のみ顔が見えなくなったために、救い主の心は、人にはとうていわからない悲しみに刺し通された。この苦悶は、肉体的な苦痛などほとんど感じられないほど大きかった。」(同書・275)

キリスト者は誠実をつくして真剣に祈らなければならない

「真剣で誠実でなければならない。熱い祈りは大いに力がある。ヤコブのように祈りの格闘をしなければならない。苦悶しなければならない。イエスは園において、大粒の血の汗をしたたらせた。あなたがたは努力しなければならない。」(1T・158)

自己放棄を伴わない苦悶は無価値である

「何か偉大なことができるように、特別の勝利と特別の祝福を求めて苦闘している魂が多くある。彼らはこの目的のために、祈りと涙で苦悶苦闘しなければならないといつも思っている。…すべての苦悶も、すべての涙と苦闘も、彼らの切望する祝福をもたらすとは限らない。自我が完全に放棄されていなければならない。」(9T・165)

祈りのテーマ

永遠の父よ、私が祈りの生活においてキリストの模範にならうことができるように導いてください。そのとき私は真剣で真実な者となることができます。

35 一心に祈る

聖書の宝石

「その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば。」(エレミヤ 29:12, 13)

質問

祈りの苦悶、一心の祈りは何を意味するか。

答え

奮闘の祈りの精神

「真剣で、熱烈な苦悶の祈り—ダビデが次のように叫んだときのような祈りが必要である。『神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ』『見よ、わたしはあなたのさとしを慕います』『主よ、わたしはあなたの救を慕います』『わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生け

る神にむかって喜び歌います』『わが魂はつねにあなたのおきてを慕って、絶えいるばかりです』（詩篇 42：1、119：40、174、84：2、119：20）。これが奮闘の祈りの精神である。王であり詩人であった彼はこのような精神を持っていた。」(4T・534)

私どもは真剣に祈ることを学ばねばならない

「熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、「求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて」神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3:20）。」（キリストの実物教訓・126）

方法を学ぶ

「私どもが神に望めば、神は私どものすべてとなりたもう。気のない、冷淡な祈りでは天よりの応答は期待できない。願いを強く言いあらわす必要がある。信仰をもって求め、信仰をもって待ち、信仰をもって受け、希望をもって喜べ。すべて求める者は得るのである。何ごとにも熱心であれ。一心に神を求めよ。…神が約束された豊かな祝福を求める方法を熱心に学べ。そうすれば神の光、真理、豊かな祝福が与えられるであろう。」(Our High Calling・131)

いかにして試練、誘惑に直面すべきか

「誘惑や試練が襲ってくるときに、神の所に行き、熱心に神に祈り求めよう。神は、われわれに何も与えずに去らせることをせず、われわれに、勝利するための、そして敵の力を打ち破るための、恵みと力とをお与えになる。」(初代文集・112)

最大の勝利をいかにして得るか

「キリストの教会、また、クリスチャン個々の最大の勝利は、才能や教育、あるいは富、または人間の援助によって得られるものではない。その勝利とは、神との交わりの部屋で熱心に苦闘する魂が、信仰によって力強いみ腕をつかむときに得られる。」
(人類のあけぼの上巻・221)

ふるいの時は忠実な者を明らかにする

「わたしは強くふるわれている神の民を示された。…彼らの顔に堅固と熱心があらわれ、額から大粒の汗が落ちていた。」(1T・179, 180)

なやみの時

「われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。ヤコブは、断固として屈しなかったために勝利した。彼の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしめない者は、それを受けることができない。」(各時代の犬争闘下巻・395)

祈りのテーマ

父よ、なやみの時に耐え得るよう、日々に熱心に祈らせて下さい。



36 目を覚まして祈りなさい

聖書の宝石

「これらの起ころうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。」(ルカ 21 : 36)

質問

クリスチャンはなぜ今日、いまだかつてなかったほどに熱心に、目を覚まして祈る必要があるのでしょうか。

答え

時は短い

「サタンが天の法廷において起こした、大争闘に永遠の判決が下されるのは、間近い。本当に間近い…。現在サタンは、油断している魂に道を誤らせ、その魂を滅ぼすために、いまだかつてなかったほどその欺く力を働かせている。」(7T・741)

サタンの方法

「彼は自らがくだてた一つの策略が失敗すると、次に新しい立場に立ち、新しい戦術を用いて、人の子らを欺き、滅ぼすのに驚くべき成功を収めようともう一度試みしてみる。青年達は、サタンの力について注意深い警告を受けるべきである。彼らは、神のみ言葉に堅くつながれ、そして勧告と助言に注意を向けるように導かれるべきである。」(4T・212)

個人的に試みられる

「サタンは最後の大いなる戦いに最大の力を発揮するよう全力をあげる。教会員一人一人の信仰は、この世界には自分以外ほかに誰も存在しないかの如くに試みられる。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・7巻・983)

悪天使の助け

「彼(サタン)は、人々の上に天の光が届くところならばどこにでも、遣わすことのできる悪天使の軍勢をもっている。彼はその警備隊に、油断している男女や子供たちを見張らせながら駐屯させている。そして彼の働きに従事させる。」(4T・210)

絶えざる警戒

「すべての魂は油断なく警戒しているべきである。用心深く、一生懸命に見張って、注意深く隠されたできばえのよいわなが知らない間にあなたをとらえる事のないように目を覚ましていなさい。我々が絶えず警戒していない限り、彼の無数の欺きにだまされて、容易にえじぎになってしまう。」(8T・99, 100)

慰めの保証

「サタンは、多くの者を導いて、祈りは形式だけで無意味だと信じ込ませる。彼は、キリストに従う者が目を覚まして彼の巧妙さと欺きに抵抗していくには、瞑想と祈りがいかに必要であるかを、よく知っている。」(1T・295)

「信仰の祈りはクリスチャンの大きな力であり、また間違いなくサタンを打ち負かすものである。」(同書・296)

祈り深い生活

「敵は、主の御前に祈り深く歩みへりくだってキリストにならう者には、勝利することはできない。

もしサタンが自分の思い通りにすることが許されていたならば、ペテロには望みはなかったであろう。彼は信仰を完全にぶちこわす事ができた。しかし敵は、定められた領分を越えては一分も前に出ることはできない。神からの知恵に信頼し、素直な信仰をもつ魂に対しては、魂を無能にするサタンの全勢力ですら何の力もない。」(ML・316)

祈りのテーマ

父なる御神様、あなたの御言葉を通して、サタンのわなをお示し下さり、また祈りによってサタンのするどい惑わしや力ある誘惑にうち勝つ力を与えて下さることを感謝いたします。どうか毎日、聖書の学びと祈りを忠実にする事が出来ます様にお助け下さい。

37 だから目をさましていなさい

聖書の宝石

「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである。」(マルコ 13: 35-37)

質問

「目をさましていなさい」との救い主の勧告はどんな意味か、我々はどんなことに対して注意し、目をさましていなければならないか。

答え

仰ぎ見上げよ

「一群の人々の光景が私に示された。彼らは目をさまして待っ

ていた。彼らの目は天の方に向けられ、『わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである』との主のみことばが彼らの唇にあった。」(2T・192)

「地上の富を増やそうと、世の中の思いわずらいに夢中になって愛着と関心を持ちながら、救い主の命じたもうたような、目をさまして待っている状態をつづけることは到底不可能であることを私は示された。」(同書・193)

最初の徴候に注意せよ

「兄弟たちよ、あなたがたの光がかげりはじめ、祈りをおこたり、霊的な眠りに入ってゆく最初のきざしを警戒せよ。」(4T・124)

あなたの習慣を注意せよ

「旧来の習慣、生来の悪癖が現れることのないように注意せよ。それらを後退させよ。そして警戒せよ。」(6T・410)

他の注意すべきこと

「性急に、短気に、しかも、いらいらして言葉を出すことのないように気をつけよ。高慢があなたの心の中に場所を見つけることのないように注意せよ。あなたが悪い感情を支配する代わりに、支配されぬように警戒せよ。あなたが軽率で浮薄な者とならぬよう、またあなたの感化力が生命でなく、死の香りを放つことのないように注意せよ。」(FLB・224)

機会を見守れ

「キリストが御自身の血をもって贖いたもうた魂を守れ、彼ら

のために善を行う機会を見守れ。」(6T・410)

努めて祈りなさい

「生活の中に矛盾のないように我々は祈るべきであり、努めて祈るべきである。努めて祈るということは、祈りが神のみ前に生けるものである事を意味し、神は祈りに答えたもうことを我々は理解しているとの事を他の人々に示すのに失敗してはならない。」(1SM・116, 117)

キリスト再臨に備えよ

「我々は、今日も自分に許されている最後の日であるかの如くに目をさまして祈り働かなければならない。そうするならば、我々の生活はいかに真剣なものとなるであろうか。また、我々の言葉や行動がもっと近くイエスに従うようになるのではないだろうか。」(5T・200)

『『絶えず祈りなさい』とは、つねに祈りの精神でいなさいということである。そうするとき、あなたは、主の来臨の備えが出来ているのである。』(同書・235)

祈りのテーマ

主よ、我らの思いがこの世のことに奪われることのないよう守り助けたまえ。我らの日毎の生活が、まもなく来たりたもう主の再臨を待ち、目をさましていることを証できるようになさせたまえ。

38 グループで祈ること

聖書の宝石

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりがどんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18:19, 20)

質問

研究や祈りまた証しのために小グループを作ることによって得られる霊的利益があるでしょうか。

答え

少数の人々が集まるように

「夕刻や昼間あるいは早朝、聖書研究のために少数の人々が集まるようになさい。聖霊によって強められ啓発され潔められるように、祈りのひと時を持つようになさい。この業をキリスト

は全ての働き人の心中になさせたいと望み給う。もしあなたが自ら得ようと戸を開くなら、大いなる祝福が与えられるでしょう。神のみ使いは、あなたの集いの中にいたもう。あなたは生命の木の葉を食すでしょう。神の祝福を求めるこれらの貴重な時に、他の働き人とかわす愛の交わりについて何とすばらしい証をなし得ることでしょう。単純な言葉でおのおのの体験を語るようになさい。」(7T・195)

聖霊のバプテスマを祈ること

「我々は霊の賜物によって力を受けるべきであるのに、なぜそれを渴望しないのであろうか。なぜそれについて語り、祈り、説教しないのであろうか。主は親がその子らによき贈り物を与えるにまさって我々に聖霊を賜ろうと望んでいたもう。聖霊のバプテスマを求めて全ての働き人は神に懇願すべきである。いかにして計画を立て、賢明に実行するかを知るための特別な助けと天来の知恵を求むべく人々はお互いに集まるべきである。」(8T・22)

ふるいの時に祈っている人々

「祈っている人々が、彼らの熱心な叫びをつづけていると、時々、イエスからの光が彼らに輝き、彼らの心を励まし、彼らの顔を輝かせた。ある人々は、この苦闘と祈りに加わらないのをわたしは見た。彼らは、不注意で無関心なように見えた。彼らは、回りの暗黒に抵抗しようとしなかったので、暗黒が厚い雲のように彼らを囲んだ。神の天使たちは、この人々を去って、熱心に祈っている人々を助けに行った。悪天使たちに抵抗するために全力をあげて闘い、忍耐強く神を呼び求めて努力しているすべての者を助けるために、神の天使たちが急いでいくのをわたしは見た。しかし、神の天使たちは、自らを助けようと努

力しない人々を去った。そして、わたしは彼らを見失ってしまった。わたしは、わたしが見たふるいの意味をたずねた。そして、それは、ラオデキヤ教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直なあかしによるものであることを、わたしは示された。(初代文集・438)

共に祈りのうちに時を過ごすこと

「天来の生命を成長させようと思うならば、我々はもっと祈らねばならない。真理の使命が最初に宣べ伝えられた時、我々はいかに多く祈ったことであろう。…しばしば熱心な祈りのうちに幾時間も過ごしたこともあった。…我々に直面せる危機はその当時よりも現在の方がもっと大きい。」(5T・161, 162)

祈りのテーマ

真理の神よ、この不安と恐怖の時代に密室の祈りおよび同信のはらからと共に祈るために、もっと時を過ごすことが出来ま
すよう助け給わんことを。

39 神のみ旨をどうしたら知り得るか

聖書の宝石

「わたしは霊で祈ると共に、知性でも祈ろう。」（コリント第一 14：15）

「だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。」（エペソ 5：17）

「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでもこの教えが…わかるであろう。」（ヨハネ 7：17）

質問

私はどうしたら神のみ旨を知ることが出来るでしょうか。どうしたら私の意志が神のみ旨にかなっているとはっきりわかるでしょうか。

答え

神の律法のうちに表明された神のみ旨

「神は求めるすべての魂に近づき給う。」（1SM・116）

「神のみこころは、神の聖なる律法のうちに表明されている。そして、この律法の原則は天の原則である。神のご意志を知ることが、天使たちの達しうる最高の知識であり、神のみこころを行うことは、彼らの力を働かせることのできる最高の奉仕である。」(祝福の山・136, 137)

神のみ旨が示される方法

「主が我々を導き更に我々が他人を導くにふさわしい者にするためにご自身のみ旨を我々に示されるのに三つの方法がある。神のみ声と見知らぬものの声とをどうしたら聞きわけることが出来るであろうか。神のみ声と羊飼いでないものの声とをいかに区別するだろうか。神は神のみ言葉である聖書の中に我々に対するご自身のみ旨を示しておられる。神のみ声はまた彼のみ摂理の働きの中にも示される。我々が自分の意のままをなしつつ己が道を歩き、潔められていない心の衝動に従い、ついには感覚がまったく混乱し永遠の事物を見究めることが出来ず、サタンの声を神のみ声と混同してしまう様なことによって我々の魂を神から引き離してしまわなければ神のみ声を認めることが出来る。

神のみ声を聞くもう一つの方法は、品性の中に現され心に印象づける聖霊の訴えを通してである。何かの問題に疑惑の念が起こった時には、まず聖書に相談すべきである。もしあなたが真に信仰の生涯を始めたならば、あなたは自分自身をまったく主のものとして与えたのだから、主はあなたをお受け取りになられ、ご自身の御目的に従い、栄の器となるようにつくられるのである。」(5T・512)

引きつけられ、望むだけでは不十分

「しかし多くの人にはキリストのうろわしさと天の栄光に引きつけられながらも、それらを自分のものとするところのできる唯一の条件を回避するのである。…彼らは細い道と狭い門を眺めるが、利己的な快樂や世を愛する心や高慢や清められていない野心が彼らと救い主との間に障壁を設ける。…彼らは良いものを望み、それを得ようとしていくらかの努力はする。しかしそれを選ばないのである。彼らはすべてのものを犠牲にしても、それを得ようという確固たる目的を持っていない。」(祝福の山・178)

神のみ旨を知るためには信仰と祈りが必要

「真の信仰と真の祈りは嘆願者が無限の愛の力をつかむ二本の腕の如きものである。信仰とは神に信頼することである。すなわち神が我々を愛しておられ、何が我々にとって最善であるかをご存知であられることを信ずることである。こうする時にもはや我々は自分自身の道ではなく、神の道を選ぶようになるのである。」(GW・259)

祈りのテーマ

「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ 22:42)



40 しるしを求めること

聖書の宝石

「イエスは彼に言われた、『あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。』（ヨハネ 20 : 29)

質問

祈りが聞かれたしるしを求めようとするのは安全か。

答え

あてにならぬテストをさける

「主は偶然の方法で働き給わない。熱心に主に祈り求めなさい。主は心に強く影響を与え、舌と言葉を与えられる。神の民は自分たちに関する神のご意志を知る方法として、人間の作り事やあてにならないテストに頼るべきでないことを教えられるべきである。」（エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・6巻・1054)

こう書かれている

「イエスは聖書のみ言葉をもってサタンに応じられた。『こう書かれている』とイエスは言われた。…サタンはキリストに神性の証拠として奇蹟を求めた。しかしどんな奇蹟よりも力あるもの、すなわち『主はこう言われる』という言葉に対する固い信頼こそ反論のできない証拠であった。」(各時代の希望上巻・129)

道案内なる神のみ言葉

「永遠の神のみ言葉は我々の道案内である。このみ言葉によって救いに至る知恵が与えられてきた。このみ言葉は我々の心と唇にあるべきである。『こう書かれている』は我々の錨となるべきである。神のみ言葉を相談相手としている人は人の心の弱さを認める。…彼らの心は祈りに満ち、聖天使に守られている。」(6T・160, 161)

危険な道案内

「感じとか気分は人が主に導かれている確実な証拠ではない。サタンは嫌疑をかけられなければ、気分や感じを与える。これらは安全な道案内ではない。すべての人は信仰の証拠を徹底的に知るべきである。そして自分の信仰をどのように表明できるか、神の栄光のために実をどのように結ぶことができるかを大いに学ぶべきである。」(1T・413)

人間的策略や計画はない

「主の御旨は生活のすべての出来事を導き、また主の働きと民に関する重大な問題の決定においてあやふやなものは全然ないという事を忘れてはならない。」

「キリストにある信仰はどんな人間的策略や計画とも交換してはならない。主を信ずる人は自分の義務を理解するのに運まかせの勝負事のようなものに訴えるべきではない。そのような経験で神の栄光は現れない。」(SP. T・38, 39)

キリストは神のみ心によって導かれた

「イエスが地上においでになる前に、その計画はこまかい点まで完全に彼の前に立てられた。しかしイエスが人々の中に生活された時、彼は一步一步天父のみ心によって導かれた。イエスは定められた時に行動することを躊躇されなかった。同じ服従によって彼は時が来るまで待たれた。」(各時代の希望上巻・170)

警告

「ある人々にとって神のみ心の知識を確かめるのに、人間がつくったテストの形でその悪を示した。そしてこれは夢中にさせるまどわしであり、また主のみ心に反するものであることが私に示された。」(2SM・28)

祈りのテーマ

「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり」、「わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました。それゆえ、わたしは偽りのすべての道を憎みます。」(詩篇 119 : 89, 104)



41 祈りの精神に入る

聖書の宝石

「その時、彼が神に祈るならば、神は彼を顧み喜びをもってみ前にいたらせ、その救いを人に告げ知らせられる。」
(ヨブ 33 : 26)

質問

しばしば祈る事が困難なことがある。どのようにしたら祈りの精神を持つことができるだろう。

答え

自らを神の臨在の中に置くこと

「祈りは、公けの集まりでささげられようが、家族の祭壇でまた密室でささげられようが、それはその人を直接に神のご臨在の下に置く。」(ML・18)

瞑想と祈りのために時を定めること

「わたしたちもまた瞑想と祈りと精神の回復のために時間を決

めておかなければならない。わたしたちは祈りの力と効果を正
当に判断してはいない。祈りと信仰は、この世のどんな力もで
きないことをする。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・495)

神とだけ共にいられる場所を定めること

「ひそかな祈りの場所を持ちなさい。イエスは神との交わりの
場所を決めておられたが、わたしたちもそうすべきである。わ
たしたちは、どんなささやかな所でもよいから、ただひとり神
と共なることのできる場所へたびたび退く必要がある。」

「神のほかだれの目も見ることができず、彼のほかだれの耳も
聞くことのできないひそかな祈りの場所で、わたしたちは心の
奥底にひそむ願いや望みを無限のあわれみに富んでおられる父
に注ぎ出せるのである。」(祝福の山・103)

聖書を読むことによって祈りのために精神を備える

「祈り、ああなたと尊い特権がおろそかにされていることだろ
う。神のみ言葉を読むことは祈りのために精神を備えるのであ
る。…祈りはクリスチャンの力である。一人ぼっちの時、一人ぼっ
ちではないのである。彼は『見よ…いつもあなたがたと共にい
るのである』と言われるお方のご臨在を感じるのである。」(IT・
504)

「我々は神のご臨在の中にある事を感じつつ敬虔さをもって聖
書の研究にたずさわるべきである。すべての研究者は、聖書を
開く時に、聖霊の光を求めるべきである。そして約束は確かな
のであるから、それは与えられるのである。」(TM・107, 108)

歌は失望に対しての武器である

「歌をもって神をほめ、感謝をささげなさい。試練にあうとき自分の気分を口に出さないで、信仰によって神に感謝の歌をささげるべきである」「歌は失望する時にいつでも用いることのできる武器である。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・231, 232)

神を思い、讃美すること

「神は私どもをつねに守っていただきますから、いつも神のことのみを考えたいと思えば、いつも心に神を宿し、喜んで神について語り、神を讃美しなければなりません。」(キリストへの道・141)

祈りたくない時、どうしたらいいか

「我々が、イエスと交わることに全く心が向かないとき、最もよく祈ろう。そうすることによって、サタンのわなを打ちこわし、暗黒の雲は消え、イエスの優しいご臨在を実感するであろう。」(HS・46)

祈りのテーマ

父よ、あなたの尊いご臨在を感じるように私を助けて下さい。そして聖霊を通して霊的な洞察力と理解力が私に与えられるように。



人々に対するわれわれの責任

聖書の宝石

「…お互いのために祈りなさい。義人の祈りは、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)

質問

誰のために特別に祈るべきか。

答え

親戚や友人

「神のために働きたいと望んでいる人に、家庭において、すなわち自分の家族や隣近所の人々や、また友人のために働きを始めさせよう。ここに彼らは有望な伝道地を見出すであろう。」(6T・428)

「個人的な祈りの時は、誰でも祈りたいだけ祈り、満足いくまで十分に祈ってもよい特権がある。彼らは自分の親戚や友人みんなのために祈ることが出来るのである。」(2T E578)

「神は信仰によって求める者に、知恵を与えると約束なさり、また神がおっしゃり、望み給うその如くなし給うのである。神はみ言葉によってご自身を捕らえる者の信仰を喜び給うのである。アウガスチンの母は、息子の悔い改めのために祈った。彼女は神の霊が息子の心に働いているという事実を見はしなかったが失望しなかった。彼女は聖句を指さし、神の前に神ご自身のみ言葉を示し、母だけがなし得る願いをささげるのであった。彼女の深い謙遜さ、彼女の執ようなまでの熱心さ、彼女のゆるがぬ信仰は勝利した。主は彼女の心の願いをかなえ給うたのである。今日も神は、神の民の嘆願を聞こうと待っていらっしゃるのである。」(5T・322, 323)

国の兵役にある青年

「彼ら（あなたの子供たち）が軍隊に召された時、あなたの祈りは彼らにともなった。彼らは危害より見事に免れた。…どれほど多くの祈りが天にたくわえられ、そして彼らの息子たちが神に従い、彼らの命を神の栄光のために捧げたことか！」(2T・275)（南北戦争の後、ある母親への個人的あかしより）

失望した者

「世の中には、希望を失っている者が多い。彼らに、太陽の光を取り戻してやろうではないか。勇気のくじけた者も多い。彼らには、励ましの言葉を語り、彼らのために祈りをささげよう。」(キリストの実物教訓・393)

我々を傷つける者

「ヨブが祈った時、主は彼のためばかりでなく、彼に反対している人々のためにも彼をとき放って下さったのである。彼が自

分に対して罪を犯している者をも助けねばならぬとの、真剣な望みを抱いた時、彼自身助けを受けたのであった。我々のためだけでなく、我々に害を加えた者、そして我々にいま、危害を加えつつある者のためにも、祈れ、祈れ、特にあなたの心の中で、主に休みを与えてはいけない。彼の耳は、彼の前に謙遜になった魂の真実な、あくことない祈りを聞こうと開かれているのである。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・3巻・1141)

前に述べた人々や、その他の人々のために祈るようにとの励まし

「贖われた者たちは、この祝福された人々の中に、自分たちの祈りや働きや愛のこもった犠牲によってキリストに導かれた人々があるのを見て、主の喜びにともにあずかる者となる。」(各時代の争闘下巻・427)

祈りのテーマ

「また、わたしは、あなたがたのために祈ることをやめて主に罪を犯すことは、けっしてしないであろう。」(サムエル上 12:23)

43 神の御声を聞け

聖書の宝石

「わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい。」(エレミヤ 7:23)

質問

どのようにして神が私たちの心に語りかけられるみ声を聞くことができるか。

答え

聞かなければならない

「キリストの声に耳を傾ける人にキリストはいつもみ言葉を送っておられる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・495)

人間の声からしりぞく

「ほかの声がみな沈黙して、静けさのうちに神の前に待つ時、

魂の静寂は神の御声を一層明らかにする。」(各時代の希望中巻・101, 102)

研究と祈り

「み言葉の研究を通し、熱心な祈りを通し、すべての魂は『静まって、私こそ神であることを知れ』というメッセージを聞く事であろう。」(キリスト教教育の基礎・441)

「祈るばかりで働かない人は、まもなく祈ることをやめるか、その祈りはただ形式的な習慣になってしまいます。」(キリストへの道・139)

聖書—神の御声

「聖書は、あたかも自分の耳で確かに聞くことができるように私たちに語りかけられる神の御声である。」(6T・393)

「聖書は単に書かれたものとしてだけでなく、わたしたちに向かって語られた神のみ言葉として受けなければならない。…

神のみ言葉の約束はみなそうである。それらの約束を通して神はわたしたちひとりひとりに向かって語られ、また、直接にみ声を聞いているかのように語っておられる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・92)

「神の御声がいかに生ける宮からあなたに直接語りかけているといえども…あなたの中にみ言葉を聞く備えがなされない限り、聖書を研究してはならない。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・7巻・919)

義務の声—神の御声

「密室の祈りほど、自己についてのかくもはっきりとした見解を与えるものはないであろう…忘れてはならない明瞭で単純な義務があなたの前に開けるであろう。」(5T・163)

「義務の声に聞き従わない男女、子供にはなんの助けもない。なぜなら、義務の声は神の御声だからである。」(TM・402)

良心—神の御声

「良心は神の御声である。」(5T・120)

「私たちは性癖に抵抗して打ち勝たねばならない。そして良心の声が消え去り、意志や衝動が支配しないように交渉や妥協などしないで良心の声に従わなければならない。」(1SM・28)

聖霊

「神の御声が聞かれるもう一つの方法は、心に印象を与える神の御霊の訴えを通してである。」(5T・512)

祈りのテーマ

信仰の耳により日毎にあなたの御声を聞かせて下さい。自分の感情や望みにこだわらず、速やかに服従させて下さい。



44 キリストの御名によって祈れ

聖書の宝石

「わたしの名によって願うことはなんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。」(ヨハネ 14 : 13, 14)

質問

イエスの名によって祈るとはどういう意味か。なぜ神の御名によって祈る事が極めて重要な事なのか。

答え

イエスの御名を唱える以上のこと

「イエスの名によって祈ることは、ただ祈りのあとにイエスの御名を唱えるということではなく、イエスの心と精神をもって祈り、それとともにイエスのみ約束を信じ、その恵みに頼り、彼のみわざにいそしむことでもあります。」(キリストへの道・139)

キリストの御名のうちにある活きた力

「弟子たちはキリストのみ名によって、働きを進めて行かなければならない。彼らの言葉や行動はみ名にしっかり結びつけられていて、生き生きした力を持ち、それによって罪人たちが救われるのでなければならない。彼らの信仰は、あわれみと力の源であられるかたに集中する。そのみ名によって彼らはみ父に嘆願し、答えをいただくのであった。…キリストの名が書かれていないものは、神の国では認められるはずはないのである。」(患難から栄光へ上巻・22)

御名は効果をもたらす

『わたしの名によって求めなさい』とキリストは言われる。これがあなたの祈りを効果的にするものである。そして御父はあなたに恵みの富を与えられるであろう。何事も求めるものは得、あなたの喜びが満ちるであろう。」(8T・178)

成功の秘訣

「その時にはまだ弟子たちは救い主の無限の方法と能力について知っていなかった。主は彼らに、『今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった』と言われた(ヨハネ16:24)。彼らの成功の秘訣は、主のみ名によって力と恵みとを求めることにあることを主は説明された。主は、彼らのために願いをするために父の前に出られるのであった。謙遜な嘆願者の祈りを、主は、その人に代って、ご自身の願いとしてささげられる。真心からの祈りはどれも天に聞かれる。それはなめらかなことばではないかも知れないが、その中に心がこもっているとき、イエスが奉仕しておられる聖所へのぼって行き、イエスはそれをぎごちないどもることばが一つもなく、ご自身の完全という香で美しくかぐわしいものとして、父にささげてくだ

さるのである。

真心と誠実の道は障害物のない道ではない。しかしわれわれは、あらゆる困難の中に祈りへの呼びかけをみとめるのである。神から受けなかった能力を持っている人はだれもいないのであって、その能力のみなもとはどんなに弱い人のためにも開かれている。『わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう』とイエスは言われた（ヨハネ 14:13, 14）。」（各時代の希望下巻・148, 149）

神は喜んで答えられる

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』といわれているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである（ローマ 8:26）。熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3:20）。」（キリストの実物教訓・126）

神はキリストの御名を尊ばれる

『わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるということである。そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞き入れて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである』（ヨハネ第一 5:14, 15）。そこであなたの願いを、

イエスの名によって父なる神に切に願い求めなさい。神は、イエスの名を尊ばれるのである。」（同書・127）

祈りのテーマ

「わたしは日ごとにあなたをほめ、世々かぎりなくみ名をほめたたえます。」（詩篇 145：2）

「まことに、あなたはわたしの岩、わたしの城です。み名のためにわたしを引き、わたしを導き、」（詩篇 31：3）

45 キリストの主な重荷

聖書の宝石

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け手はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ 16 : 7)

質問

キリストがこの地上で生活された時、彼は時間の大部分をどのように費やされたか。彼が説教された重要な主題は何であったか。

答え

キリストはほとんどの時間を祈りに費やされた

「一日中働きに献身された。そして夜通し祈られた。それは、敵に応ずる準備をし、救いを求めてキリストに来る者を助けるために用意をするためであった。」(GW・115)

祈りはイエスの毎日のつとめの一部であった

「イエスは、毎朝神との交わりに幾時間かを過ごしたあとで、人びとに天の光を与えるために出ていかれた。イエスは、日ごとに聖霊の新しいバプテスマをお受けになった。神は、新しい一日の早くからイエスの目をさまし、彼の心とくちびるに恵みをそそがれた。それは、彼が人びとに分け与えるためであった。」(キリストの実物教訓・114)

弟子達はキリストの密室の祈りを聞いた時、深く感動した

「それを聞いた弟子達の心は強く感動した。彼らは、主が、父なる神との交わりに、おひとりで幾時間もお過ごしになることがしばしばあることを知っていた。…神と幾時間もお過ごしになってから、主は朝ごとに、天の光を人々にもたらすために出てこられた。弟子達は主の祈りの時間と主の言葉や働きの力とを結びつけて考えるようになった。」(祝福の山・128)

「イエスは、山の中で祈りのうちに一晩を送られることがよくあった。」(各時代の希望中巻・190)

キリストの説教の重要な主題

「偉大な教師であったキリストは、選ぶことの出来る無限のあらゆる種類の主題を持っておられたが、その中でも、最も強く力説されたことは聖霊の賜物ということであった。この賜物のゆえに何と大きな事を彼は教会に対して預言されたことであろう。しかも現在この主題が力説されていないのは何たることであろう。また、この約束ほど成就されていないものは少ないのだ。聖霊に関してときどき説教され、その主題はあとでよく考えようとして放置される。」(ISM・156, 157)

すべての他の祝福をもたらす

「使徒時代の聖霊の降下は『はじめの雨』であって、その結果はすばらしいものであった。しかし、『後の雨』はもっと豊かに与えられるであろう。」

「聖霊の約束はほとんど考えられていない事柄である。そこで、その結果は、当然そのことから期待されるようなものに過ぎない。すなわち、霊的かんばつ、霊的な暗黒、霊的な墮落と死である。小さな事柄が注意をうばっていて、教会の繁栄と成長に必要であり、また、他のすべての祝福をもたらす聖なる力に欠けている。しかもそれは豊かに提供されているのだが…。

福音の働きを力のないものに行っているのは、聖霊の欠如である。」(8T・21)

「聖霊を求めよ。神はご自身がおたてになった約束の背後におられるのだ。」(同書・23)

祈りのテーマ

「わたしをみ前から捨てないでください。あなたの聖なる霊をわたしから取らないでください。あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。」(詩篇 51 : 11, 12)



46 われらの仲保者、キリスト

聖書の宝石

「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。」（テモテ第一 2：5）

質問

仲保者としてのキリストの働きをどのように理解したらよいだろうか。

答え

キリストの仲保の働きを研究すること

「パトモス島にいた使徒ヨハネに、神は彼を通して人々に与えたいと望まれたことを示された。これらの黙示を研究せよ。…キリストの生涯とご品性をながめ、彼の仲保の働きを研究せよ。ここに無限の知恵、無限の愛、無限の正義、無限の慈悲があるのだ。」（6T・59）

キリストは鎖のつなぎ目である

「キリストは神と人との間の鎖のつなぎ目である。キリストは彼の個人的なとりなしを約束された。キリストは彼の義のすべての力を嘆願者の側におかれる。…我々があがない主の功績のおかげで神に近づくと、キリストは彼のそば近くに我々をおき、彼の人間としての腕が我々を取り囲むと同時に、彼の神としてのみ腕が無限の王座をしっかりと捕まえるのである。…キリストは我々の願いに耳を傾け、それに答えることを約束される。

そうなのだ、キリストは人と神との間の祈りの仲立ちである。また彼は神と人との間の祝福の仲立ちともなられる。」(8T・178)

キリストは我々の代表者である

『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』と言われたことばは、全人類を含んでいる。神は我々の代表者としてのイエスに語られた。…キリストの上にくだった栄光は、我々に対する神の愛の保証である。それは祈りの力について、すなわち人間の声が神の御耳に届くことと、我々の祈願が天の宮廷に受け入れられることとを告げている。…イエスに語られた御声が、信じている一人ひとりに向かって『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』と言われるのである。」(各時代の希望上巻・118, 119)

神性が人性と一致する

「救い主は何のために御自分の神性が人性と結合しているかを弟子達が理解するように熱望された。…神はキリストのうちに現されたが、それはキリストを通して神が人々のうちに現されるためであった。イエスは、人がイエスに対する信仰を通して持つことのできないような特性をあらわしたり、能力を働かせ

たりされなかった。キリストの完全な人性は、キリストに従うすべての者が、キリストと同じように、神に服従するときに所有することのできるものである。」（各時代の希望下巻・147）

救いの計画の本質

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである。われわれは、信仰によって、『わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた』幕の内に入らなければならない（ヘブル6:20）。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、われわれは、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる。人間の救済は、天が無限の価を払うことによって達成された。払われた犠牲は、破られた神の律法の最大限の要求に相当するものである。イエスは、父なる神のみ座への道を開かれた。そして、信仰によって彼に来るすべての者の心からの願いは、彼のとりなしによって、神の前にささげられるのである。天において完成させるために昇天された。…イエスは父なる神のみくらに通じる道を開かれた。それ故に、イエスのとりなしによって、信仰によって彼のもとに来るすべてのものの熱心な望みが神の前に披瀝されうようになったのである。」（各時代の争闘下巻・222, 223）

キリストの名によって祈ることの重要さ

「キリストの御名によって祈ることには多くの意味がある。それはわれわれがキリストの品性を受け入れ、キリストの精神をあらわし、キリストのみわざをなすことを意味する。…主は人を罪のうちにあって救われるのではなく、罪から救われるので

ある。そして、主を愛する者たちは、従うことによって彼らの愛を示すのである。」（各時代の希望下巻・150）

祈りのテーマ

「主よ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」（詩篇 86：11）

47 祈りはサタンを打ち破る

聖書の宝石

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」(エペソ 6:11)

質問

クリスチャンの戦いにおいて、私たちはいかにしてサタンに勝利し得るか。

答え

安全を得るための代価

「サタンの軍勢との戦いには、神の側かこの世の君の側か、どちらかに勝利がきまる決定的な瞬間がある。戦っている者たちが、はっきり目をさまし、熱心に、自らを制し、知恵を求めて努めて祈っていないならば、…主の軍勢に打ち負かされるはずだったサタンが、反対に勝利を得てしまう。

私たち一人一人が、霊的に目をさましていることが、安全を得るための代価である。サタンに勝利を得させないために、た

とえ1インチたりとも、サタンの側にそれではならない。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・6巻・1094)

「祈りはわたしたちを互いに結びつけ、また、わたしたちと神とを結びつける。祈りはイエスをわたしたちに近づけ疲れ果てて倒れそうな魂に、世と肉と悪魔に勝利する新しい力をもたらす。祈りは、サタンの攻撃をかわすものである。」(キリストの実物教訓・225, 226)

サタンとの一生の戦い

「私たちは目の前に戦いをひかえています。それはサタンとその魅惑的な誘惑に対する一生の戦いです。敵は魂を迷わすためにあらゆる議論、あらゆる欺まんを用います。生命の冠を勝ち得るためには熱心な忍耐強い努力を注がねばなりません。」(青年への使命・97)

「われわれは神の武具をすべて身につけて、いつでも暗黒の勢力と戦う用意がなければならない。誘惑や試練が襲ってくるときに、神の所に行き、熱心に神に祈り求めよう。神は、われわれに何も与えずに去らせることをせず、われわれに、勝利するための、そして敵の力を打ち破るための、恵みと力をお与えになる。」(初代文集・112)

祈りを怠ったり、たまにしか祈らないと

「祈りを怠ったり、都合のよい時、たまにしか祈らないと神から離れてしまうことになる。霊的な力は衰え、宗教的経験も健康と力を欠く。」(GW・255)

気をつけよ

「ひとり静かに祈ることと、み言葉を学ぶことを怠っていないか否かに気をつけましょう。これこそ私たちが天国へ進むのを妨げようと努力しているサタンに対する武器です。祈りと聖書研究をいちど怠れば次に怠ることはあっという間に容易になります。」
(青年への使命・88)

サタンのほのめかし

「信仰の祈りは、クリスチャンにとって大きな力であり、確実にサタンに勝利するものである。祈る必要はないと、サタンが暗にほのめかすのは、このためである。我らの助け主、イエスの御名をサタンはいみきらって、私たちがイエスのもとに来て熱心に助けを求めると、サタンの軍勢はうろたえる。もし私たちが祈りを怠れば、その人を欺く奇蹟が、たやすく受け入れられるから、サタンの願うところである。」(1T・296)

「最もへり下った聖徒が天にささげる祈りは、内閣の布告や王の命令よりも、サタンに恐れられる。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・2巻・1008)

祈りのテーマ

「わたしの歩みはあなたの道に堅く立ち、わたしの足はすべることがなかった。」(詩篇 17:5)



48 母の祈り

聖書の宝石

「あなたの子らはみな主に教を受け、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ 54 : 13)

質問

私は自分の子らが永遠の生命を得る備えのために何ができるか。

答え

天はすべての母の祈りの前に開かれている

「キリストがバプテスマをお受けになってヨルダンの河の岸にお立ちになって人類のために祈りをささげられた時、天は開かれたのである。そして神のみたまが輝く金色のはとの姿で救い主を取りまき『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』という天からの御声が聞こえたのである。

これはあなたにとってどんなことを意味するものであろうか。それは天があなたの祈りの前に開かれていることを物語るもの

であり、あなたが『愛するもの』のうちにあって受け入れられていることを表しているのである。救い主の御足許にその重荷を差し出そうとするすべての母のために天の門戸が開かれているのである。更にまたキリストはその人性の御腕をもって人類をかかえ、その神性の御腕をもって無限の宝座をつかみ、人を神に連結し、地を天とつなぎたもうたことを意味するものである。」(CG 525, 526)

尊い特権

「これはどの時代の母親たちにとっても励ましとなる教訓である。母親は子供たちのために自分の最善を尽くしたのち、イエスのところに彼らを連れて行くことができる。母親の腕に抱かれている赤ん坊すらも、イエスの御目には尊いのである。母親の心が、自分が与えることができないとわかっている助けと恵みを切望し、自分自身と子供とをキリストのあわれみ深いみ腕にまかせるとき、キリストは彼らを受け入れて祝福される。彼は母親と子供に平和と希望と幸福をお与えになる。これはイエスがすべての母親にお与えになった尊い特権である。」(アドベンチスト・ホーム・305)

クリスチャンの母親の祈りは実を結ぶ

「クリスチャンの母の祈りはすべてのものの父でいます神から、顧みられないようなことはない。神はあなたの訴えを退けて、あなたとあなたの子らを最後の争闘の日にサタンの攻撃のうちに置き去りにすることはないのである。あなたが忠実と単純さをもって努力するならば、神はあなたの手になすべきつとめを与えるであろう。」(CG・526)

「地上においてなされた生涯を通じてのこうした働きは、よくした働きとして天の宮廷において認められるのである。

両親達は言い表せない喜びをもって、彼らの子らに与えられた冠と衣と琴を見るのである。…種は涙と祈りのうちにむなしく蒔かれたと思われたけれども、ついには喜びとともにとり入れられたのである。」(同書・569)

感化はいつまでも続く

「祈りをなし神を恐れる母の感化は永久に続くのである。たとえ彼女が死んでもその感化は続くのである。」(4T・500)

祈りへの招き

「すべての家庭が祈りの家となるべき時があったとすればそれは今である。」(7T・42)

「真剣で熱心な祈りによって両親はその子らのまわりに垣根をめぐらさねばならない。神が彼らの子らのうちにお宿りになり、聖天使等が彼らを守り、サタンの残忍な権力からお守りになるという全き信仰をもって祈らねばならない。」(同書・42, 43)

「両親達は彼らのつとめの上に導きがあるように神に求めよう。彼らが神の前にひざまずくときに彼らの大いなる責任の真の理解を得、勧告と教訓を与えることに決して過ちをおかさない方に、彼らの子らを委ねることができるのである。」(アドベンチスト・ホーム・321)

祈りのテーマ

主よ、私が自己を捨て、主が私にお委ねになられた宝のためのお約束を求めることが出来るよう助け給え。私の子供たちがそのこうべに栄光の冠をいただくことが出来るように助け給え。

49 特別な招き

聖書の宝石

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。」(ヘブル 4:15, 16)

質問

「すべての助け」とは霊的な事柄におけると同様、現世にまつわる事柄をも含むものか。

答え

特別な招き

「わたしたちは特別の招きをいただいて、神のもとに来る。神はわたしたちを謁見室に迎え入れようと待っておられる。…神

の祝福を望む者は、『主よ、あなたは、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう」と言われました』と言って、確信をもって恵みの戸をたたいて待つことである。」(祝福の山・163, 164)

あらゆる必要なものに対する助けを求めよ

「わたしたちは、子供のような単純さで、主にわたしたちの必要なその物を申し上げることが出来る。わたしたちは主にいのちのパンとキリストの義の衣を求めるのと同じように、パンや衣服などこの世の物を主に申し上げることが出来る。あなたの天の父は、これらすべてのものがあなたに必要であることを知っておられる。あなたはそれらについて神に求めるように招かれているのである。すべての恵みはイエスの名によって与えられる。神はその名を尊び、あなたの必要を豊かな富のうちから惜しむことなく満たしてくださる。」(同書・166)

「天においても地においても、いっさいの権威を持つお方から来る賜物は、神の子らのために貯えられている。その賜物は非常に尊いもので、高価な犠牲である贖い主の血潮によって与えられた物である。それはまた人の心のどんな願いでも満足させ、永遠に続くものであって幼子のように神のもとに来るすべてのものが受けてその祝福にあずかる物である。」(同ページ)

試練にあって

「『わたしのもとに来なさい』というイエスの招きである。あなたの心配事や試練か何であろうと、主の前に事情をうち明けなさい。」(各時代の希望中巻・49)

はばかりことなく来たれ

「天は私どもの訴えの前に開かれており『あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づ』けとの招きを受けているのである。主に求めたその物は与えられると信じつつ、信仰を持って御座に行くべきである。」(エレン・G・ホワイト注解 SDA 聖書辞典・5巻・1078)

神は現世にまつわる祝福も与えようと望んでおられる

「神は、靈的のものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。腕と技巧とを与えることがお出来になる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。」(キリストの実物教訓・125)

祈りのテーマ

主よ、恵みの御国への道が、常に開かれて靈的な事柄と同様、現世にまつわる事柄においても助けを受けるために来なさいと招いてくださることを感謝いたします。あなたの慈愛はまことに大いなるものであります。

50 祈りに対する偽りの解答

聖書の宝石

「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。」(エレミヤ 33 : 3)

質問

サタンは、祈りに答えるように見せかけて、神の御業を装うことが出来るだろうか。

答え

あらゆる恩恵に対してサタンはその偽物を持つ

「主が本物の恵みを与えようと働かれる際には、いつであっても、またどこであっても偽物もまた現れる。それは神の真の御業が何の影響も受けることがないようにするためである。」(ISM・142)

1844年に与えられた光を拒んだ者たちの経験

「わたしは、彼らが、御座を見上げて、『父よ、あなたの霊をお与え下さい』と祈るのを見た。するとサタンは、彼らに汚れた力を吹きこむのであった。それには、光と多くの力とがあった。しかし、あたたかな愛、喜び、平和はなかった。サタンの目的は、神の子供たちを欺いて、彼らを引きもどし、惑わすことであった。」(初代文集・126)

大リバイバルの時に、サタンはその偽物を導入するであろう

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。

大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜びが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。」(各時代の争闘下巻・190, 191)

サタンは、一方では神に従う事をしづりながら、他方では祈る者たちに一つの経験を与える

「神の最も積極的な命令にもかかわらず、男達も女達も自分た

ち自身の好みに従おうとする。それから敢えてその問題について祈り、自分たちは神の明らかに表された御旨と反対の方向に行くのを神が同意して放任して下さるように説得しようとする。主はそのような祈りを喜ばれない。サタンはエデンでエバにしたように、そのような人々のかたわらに来て、彼らにある印象を与える。彼らは心に、ある感動を覚え、これを主が与え給うた非常にすばらしい経験として語るのである。真の経験は、自然の法則と神の聖なる律法に完全に調和しているものである。」(3T・72, 73)

我々の必要

「真理であると主張する熱狂と誤謬のあらゆる姿が、神の残りの民の間にもたらされるであろう。」(2SM・14)

「主は人に、彼らを見分けるための法則を与えておられる。「律法と証とを求めよ。もし彼らがこの言葉に従って語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである」。もし彼らが神の律法を軽んじ、主のみ霊の証に啓示されている神のみ心に注意しないならば、彼らは欺く者である。彼らは聖霊から来たものであると信じている衝動や印象に支配されており、それは靈感を受けたみ言葉より一層信頼できると見なしている。(BE 1886年9月)。

「もし我々が信仰に自分自身を築き上げるならば、力強きお方の守りの中であって安全であろう。」(5T・297)

祈りのテーマ

父よ、サタンの最も強力な惑わしから救われるように、信仰に自分自身を築き上げるのを日々お助け下さい。



祈りがきかれる鍵としての信仰

聖書の宝石

「さて信仰とはわたしたちが望んでいる事柄を確信する保証であり、わたしたちが見ていない事実を確信することである。」（ヘブル 11：1、ウェイマス訳）

「そして信仰がなくては、神を喜ばすことは不可能である。なぜなら、だれでも、神に近づこうとするものは神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」（ヘブル 11:6、RSV訳）

「すべて信仰によらないことは、罪である。」（ローマ 14：23 下旬）

質問

祈りが答えられるために、どれほど信仰に頼るべきであるか。「信仰の祈り」とは何であるか。

答え

信仰とは神に近づくための、ただ一つの道である

「信仰とは、無限にふれる霊的な手である。」(6T・467)

「信仰は神の恵みとあわれみの招待を、魂が把握する手である。」(人類のあけぼの下巻・35)

「まことの信仰と、まことの祈りは、いかに力強いものであろう！これらは、嘆願者、人間が無限の愛の、力あるお方をつかむ二本の腕のようなものである。」(GW・259)

信仰は私たちの救い主ではない

「信仰を通してわれわれは神のめぐみを受ける。だが信仰はわれわれの救い主ではない。信仰そのものには功績がない。信仰は、キリストをしっかりとらえて、彼の功績すなわち罪からの救いをわがものとする手である」(各時代の希望上巻・207)

神は私たちの手を求められる

「神はわれわれが品性の完全に到達できるように、われらの中にある信仰の手を求め、それをみちびいてキリストの神性をしっかり把握(はあく)させてくださるのである。」(同書・135)

信仰はイエスを私たちの仲保者として見る

「信仰は、イエスが私たちの仲保者として、神の右側に立っておられるのを見る。」(GW・259)

「今日キリストは、彼の助けを求める者の祈りを神の前にとりなすために、あわれみの祭壇に立っておられる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング・90)

「罪人の、心から出た単純な祈りが、神の御座に昇って行く時、キリストは御自身の完全な服従の御生涯の功しを、共に混ぜ合わせて下さる。私たちの祈りは、この香によってかおりあるものとなるのである。キリストは、私たちのために、とりなして下さると約束された。そして御父は常に御子に耳をお傾けになるのである。」(SD・22)

信仰の祈りの定義

「必ず与えられると期待しながら、私たちが、地上の友に助けを求めるように、魂の必要を訴えるまじめな心から出た祈り、これが信仰の祈りである。」(ML・19)

まことの信仰の土台

「まことの信仰の土台は、聖書の約束と教えの中にその土台をおくのである。」(GW・260)

「私たちは、私たちの信仰に信頼をおくのでなく、神の約束におくべきである。」(青年への使命・111)

祈りのテーマ

私の信仰はあなたを見上げます。カルバリーの小羊、救い主よ！今、私が祈っている間、どうかお聞き下さい。私のすべての罪を取り去って下さい。おお今日から私を、全くあなたのものにして下さい。



52 エノクはどのようにして 神と共に歩んだか

聖書の宝石

「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなつた。」（創世記 5：24）

質問

「エノクは神とともに歩み」とはどういう意味か。

答え

毎日の働きにたずさわっている時の声なき祈り

「我々は毎日の働きにたずさわっている時にも、祈りによって魂を天に向けなければならない。このような声なき祈りは、恵みの御座の前に香の如くに昇って、敵を打ち破ることが出来るのである。…このようにしてエノクは神と共に歩んだ。そして神は彼と共におられ、必要な時にすぐ助けを与えられた。」

「祈りは魂の呼吸である。それは靈的力の秘訣である。他のどんな恵みの方法も、これに代わって魂の健康を保つことは出来ない。祈りによって心は命の泉である方と直接交わることができ、こうして宗教経験が強められるのである。」(GW・254, 255)

絶えざる祈り

「私は、神の御業にたずさわる全ての働き人に、絶えず熱心に祈ることがどんなに必要であるかを感じさせることができたらと思う。誰もずっとひざまずいている事はできないが、心を神に向けていることはできる。これが、エノクが神とともに歩いた方法である。」(5T・596)

「エノクが神と共に歩んだのは、恍惚状態や幻を見るようなものではなくて、日常のすべての務めを果たすことにおいてであった。彼は、自分を世から全くしゃ断して、隠者にならなかった。というのは、彼は、この世で神のためにしなければならない仕事があったからである。彼は、家庭においても、人々との交際においても、夫、父、友人、市民として、常に堅く立ってゆるがない主のしもべであった。」(人類のあけぼの上巻・81)

残りの民の型

「この預言者の清い品性は、キリスト再臨の時に、『地からあがなわれ』る人々が到達しなければならない清い状態をあらわしている(黙示録 14:3)。そのときには、洪水前の世界のように、罪悪が世にはびこる。人々は汚れた心の衝動と偽りの哲学の教えに従って、天の權威に逆らうのである。しかし、神の民は、エノクのように心の純潔と神のみこころとの一致を求めて、ついにキリストのみかたちを反映するに至るのである。彼らは、エノクのように、主の再臨と罪に対して下される刑罰について

世界に警告を発し、その清い行状と模範とによって、不信心なもの罪を譴責する。世界が水によって滅ぼされる前にエノクが天に移されたように、生きている義人は、地が火によって滅ぼされる前に天にあげられる。」(同書・86)

天の雰囲気の中で生活した

「エノクの心は永遠の宝に向けられていた。彼は天の都を見ていた。彼は天のシオンの中央におられる栄光の王を見ていた。罪悪がはびこればはびこるほど、神の国をしたう彼の気持ちはいっそう熱心になった。…

『心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう』。三百年の間、エノクは、天と調和できるように、心の清さを求め続けた。三世紀の間、彼は神とともに歩んだ。日に日に、彼は神とのより密接な結合を求めて、神が彼を御自身の許へお取りになるまで、それを続けたのであった。そして、ついに、彼は永遠の世界の門口に立ち、祝福された者たちの地との間にただ一步をへだてるばかりに至った。その時、門が開かれ、地上で長い間神とともに歩いてきた生活をそのまま続けることによって、聖なる都の門を通ったのであった。

そのような交わりに、神は我々を招いておられるのである。」(8T・330, 331)

祈りのテーマ

天の父よ、エノクが天にあげられる前に、神に喜ばれた者と証されておりましたように、私共も神をお喜ばせすることができますように。

53 我々の経験と働き

聖書の宝石

「彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう。」(ルカ 1:17)

質問

エノクとバプテスマのヨハネの経験は、どのように神の残りの民に関係するか。

答え

我々の経験を代表する

「エノクとバプテスマのヨハネの経験は我々の持つべき経験をあらわす。死を見ないで天に移された人と、キリストの初臨のために主の道をまっすぐにするようにその道を備えるために召された人の生涯を我々はこれまで以上に研究する必要がある。」(8T・329)

奉仕の準備

「ヨハネの生涯は怠惰の中に、禁欲主義者の暗さの中に、また自己中心的な孤立の中に過ごされたのではなかった。彼はたびたび人々と交わるために出ていった。彼は世界に起こることをいつも興味を持って観察した。自分の静かなかくれ場から、彼は出来事の展開を見守った。…働きの重荷が彼の上にあった。ただ一人で、瞑想と祈りによって、自分のためにおかれた生涯の働きのために心の帯がしめられるように願った。」(GW・57)

「バプテスマのヨハネは荒野に生活している間、神に教えを受けた。彼は自然における神の啓示を学んだ。神の霊の導きの下に彼は預言者の巻物を研究した。日毎夜毎、キリストが彼の学びであり、彼の瞑想であった。そして遂に、彼の精神も、心も、魂も、輝かしい幻で満たされるのであった。」(8T・331)

靈的幻の結果

「彼はうるわしき姿の王を見上げた。自己は見えなくなった。彼は聖なる王を見、自分の無力と無価値を知った。彼が宣言しなければならないのは神の使信であった。彼は神の力と神の義の中に立つべきであった。彼はこれまで神聖な御方を見上げてきたので、今や人を恐れず、天の使者として出ていく備えができた。彼は天の王のみ前におのきつつ礼拝してきたので、地上の王の前に恐れなく立つことができた。ヨハネが語った使信には、念の入った議論や余りに微妙な学説はなかった。」(同書・331, 332)

幻は謙遜を生み出した

「ヨハネは信仰をもって贖い主を見上げることによって、自己否定の高峰にのぼった。彼は自分に人をひきつけようとせず、神の小羊に頼るまでに人々の思いを高く、なおも高くあげようとした。彼自身はただの声であり、荒野の叫びに過ぎなかった。」(同書・333)

「自我がからになった預言者の魂は、神の光で満たされた。」(同書・334)

我々も同じ使命を

「この時代に、キリストが天の雲にのって再び来られる直前に、ヨハネの働きと同じ働きが成しとげられねばならない。」(同書・332)

「ヨハネが与えたような使信を与えるために、我々は彼と同じ霊的経験を持たねばならない。我々の中に同じわざがなされねばならない。我々は神を見なければならぬし、神を見て自己を見失わなければならない。」(同書・333)

「ヨハネは生まれつき、人間に普通にある欠点と弱さをもっていた。しかし神の愛の手が彼を変えたのである。」(同ページ)

祈りのテーマ

主よ、願わくはバプテスマのヨハネと同じく私どもに「聖霊をみた」して下さいように。そして私どももまたあなたが任命された働きを成しとげることが出来ますように。

もっと詳しく聖書を学びたい方のために...



“スタディバイブル”

口語訳
解説付き聖書
各 10,000 円

標準型（幅 153mm、高さ 220mm、厚さ 38mm）
余白付大型（幅 165mm、高さ 235mm、厚さ 38mm）

難漢字ふりがな付き。上質の合成皮革。E.G. ホワイトの注
解、脚注、引照付き、地図、チャート、金のりんご、聖書語句索引、
口語訳聖書の標準ページを左右余白に付記。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー
〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊 1471
TEL (0980) 56-2783 FAX (0980) 56-2881
contact@srministry.com www.srministry.com